平成 29 年 1 月 20 日発行（毎月 20 日発行）通巻 708 号

ほすぴたる

No.708
平成 29 年 1 月 20 日
福岡県病院協会

C O N T E N T S

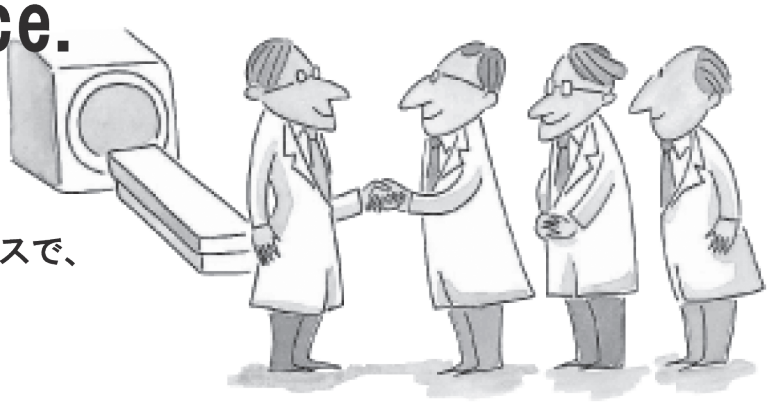
新年の挨拶	年頭のごあいさつ	福岡県知事　小川　洋	1
	新年のご挨拶	公益社団法人福岡県医師会 会長　松田峻一良	2
	新年のご挨拶	公益社団法人福岡県病院協会 会長　石橋　達朗	3
会員広報	第８回福岡県病院協会参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会報告	公益社団法人福岡県病院協会 専務理事　平　祐二	5
新 人 物	新任のごあいさつと高木病院の紹介	医療法人社団高邦会高木病院　病院長（国際医療福祉大学福岡保健医療学部　教授）　工藤　祥	12
	新任のご挨拶	労働者健康安全機構 九州労災病院　院長　岩本　幸英	14
病院管理	医療経営が厳しい時代を迎えて	社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院　病院長　島　弘志	15
看護の窓	「つながる看護」を目指した看護師教育	福岡県済生会二日市病院 副看護部長　山本　美子	16
Letter	ニワトリ、酉、そして医学と鶏	国立病院機構九州医療センター 名誉院長 学校法人原学園原看護専門学校 学校長　朔　元則	20
Essay	船は女性か	元医療法人誠十字病院 平衡神経科　医師　安田　宏一	22
	人体旅行記　脛	国立病院機構九州医療センター 医療情報管理センター　部長　吉住　秀之	23

■福岡県私設病院協会
平成 28 年 12 月福岡県私設病院協会の動き　24

■県協だより　25

■編集後記　岡嶋泰一郎　37

Teleradiology Service.
and ASP Service.



確かな診断を、より確かなものに。
ネットワークを利用した読影サービスで、
あなたをバックアップします。

Teleradiology

～遠隔画像診断サービス～
医療に地域格差があってはならない
そう私たちは考えます。

ASP Service

～遠隔画像診断ASPサービス～
放射線科の先生方向けに、遠隔
読影システムから課金に至るまで
統合的にサービスをご提供します。

株式会社ネット・メディカルセンター

〒815-0081 福岡市南区那の川1丁目24－1
九電工福岡支店ビル6階
フリーダイヤル：0120-270614　FAX：092-533-8867
ホームページアドレス http://www.nmed-center.co.jp/

寝具・病衣・白衣・タオル及びカーテンのリース洗濯
患者私物衣類の洗濯

☆寝具・カーテン・看護衣・診察台カバー・タオル・紙おむつ・レセプト用紙
介護用品等の販売、ベッドマットリース・販売、給食材料・給食依託業者・
重油等の斡旋及び各種保険の取扱いもしております。

福岡県私設病院協会グループ
福岡医療関連協業組合
Clean & Comfortable

理事長 **江 頭 啓 介**

専務理事	佐田 正之	理　事	津留 英智
理　事	原　寛	監　事	杉　健三
理　事	陣内 重三	監　事	松村　順
理　事	牟田 和男	事務局長	関　賢司

〒 811-2502　糟屋郡久山町大字山田 1217-17
TEL 092-976-0500 ／ FAX 092-976-2247

年頭のごあいさつ

福岡県知事
小川　洋

新年あけましておめでとうございます。公益社団法人福岡県病院協会の皆さまにおかれましては、晴れやかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

皆さまには、日ごろより県民の健康の増進と地域医療の確保にご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

昨年は、総じて、福岡県は元気な一年でした。

本県出身者として初めてとなる大隅良典教授のノーベル賞受賞、リオオリンピック・パラリンピックでの二人の銀メダリスト誕生など、明るいニュースが数多くありました。

知事就任以来実施している「県民意識調査」では、「この県に生まれてよかった。生活してよかった」と感じている方が初めて８割を超えました。

一方、熊本地震により、熊本県をはじめとして甚大な被害が発生しました。医療関係者の皆さまにおかれましては、発災直後よりDMATの派遣をはじめ、被災地に向けた積極的な支援を展開していただきました。各医療関係者の皆さまのご尽力に改めて敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

県としましては、本年も引き続き、被災地の復興を全力で支援するとともに、熊本地震の教訓を踏まえ、安全、安心、災害に強い福岡県づくりを進めてまいります。

平成26年のいわゆる医療介護総合確保推進法の制定以来、本県においても、地域医療介護総合確保基金の創設など、将来必要となる医療・介護の提供体制の構築に向けたさまざまな取り組みを進めてまいりました。

その大きな柱である、将来のあるべき医療提供体制の姿を示した「地域医療構想」については、平成28年度中に策定することとしています。

団塊の世代の方々が全て75歳以上となる平成37年に向けては、県民の皆さまがいつでも、どこでも、安心して、医療を受けられる体制をいかに構築するかが何よりも重要となります。これは、地域医療を担う皆さまのご協力がなくては実現できるものではありません。今回の構想策定にあたっては、貴協会の皆さまにおかれましても、各区域での調整会議などを通じて、貴重なご意見をいただきましたことを、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

今回の「地域医療構想」の策定における議論を踏まえ、「次期医療計画」の策定に向けた取り組みが、平成29年度から本格化します。この計画は、本県の保健医療を総合的・効果的に推進するための基本的な計画です。県民一人一人が幸福を実感できる、「県民幸福度日本一」の福岡県を目指して、誰もが安心して必要な医療を受けることができるよう、全力で取り組んでまいりますので、貴協会におかれましても、石橋会長のもと、より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

今年は酉年です。県民の皆さまがそれぞれ個性や能力を活かして、地域、学校、職場などで生き生きと「翔き」、活躍する、そして福岡県、九州、日本が元気に「翔く」年にしたいと考えています。新年が貴協会ならびに会員の皆さまにとって素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

新年のご挨拶

公益社団法人福岡県医師会
会長　松田 峻一良

新年明けましておめでとうございます。健やかに2017年の新春をお迎えのことと存じます。

昨年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催され、史上最多のメダル獲得や、世界で初めてオートファジーの分子レベルでのメカニズムの解明に成功した大隅良典氏がノーベル医学･生理学賞を受賞するなど､目標に向かって決して諦めない心堅石穿の精神に感動した年であったと同時に、４月に発生した熊本地震をはじめ、台風による土砂災害、阿蘇山の噴火など、身近に起こり得る自然災害の恐怖に、居安思危の教えを実感した年でもありました。

熊本地震につきましては、日本医師会災害医療チーム（JMAT）として、30チーム153名を被災地に派遣することができ、皆様には物心両面にわたる多大なるご支援を賜り心から感謝申し上げます。今回の熊本地震では、情報共有やコーディネーターの配置、指示系統の在り方など、様々な問題点が浮き彫りとなりました。県民をどのように助けるか、その一言に集約できると思いますが、福岡県が同様に被災地域となった際にどのような医療救護活動を行うのか、救急・災害医療対策委員会においてワーキンググループを立ち上げ、医療需要の把握とともに供給にも対応できるような体制の見直しと福岡県医師会災害医療プログラムのカテゴリーⅡの新規作成を進めているところです。

本県の地域医療構想につきましては、各医師会において開催していただきました、病院、有床診療所及び在宅医療を行っている医療機関等を対象とした意見交換会における内容を反映して策定を進めており、本年２月末に公表予定です。地域医療構想とは、「将来のあるべき医療・介護供給体制を実現するための施策」であります。2018年度からスタートする第７次医療計画には、各都道府県が描いた地域医療構想の実現に向けて、その道筋を具体的に記載することになっており、2025年の医療提供体制構築を見据えた今後の地域医療の根幹をなす計画とも言えます。今後も切れ目のない医療・介護供給体制の構築に向けて全力で取り組んでまいります。

また、本会では平成26年度より「福岡県医師会診療情報ネットワーク（愛称：とびうめネット）」を県内全域で展開しておりますが、とびうめネットは医療機関同士を密接に繋ぐための医療情報の基盤となるもので、将来的にはとびうめネットに加えて、健診情報や介護情報等、我々が生きていくために必要な情報を集約するICT医療情報の整備を行っていきたいと考えております。高齢化と人口減少を踏まえ、国民が健康で安心して暮らしていける社会を構築する、すなわち医療・介護に疲弊することなく、生きがいのある人生を満喫できる社会を作るために何をすべきか、今年を医療ICT基盤整備元年と考え、実現のために邁進していきたいと考えております。

現在医療界が抱える課題は複雑に絡み合って、全てが今後の医療提供体制構築に繋がっております。

地域ごとに異なる医療提供体制を再構築し、充実させていくためには、地域医療の現場で先頭に立って指揮をする、医師一人ひとりの協力、団結が必要となります。昨年の参議院議員選挙では、福岡県は、４万6,398票を獲得し、Ａ会員一人当たりの得票数が、47都道府県で唯一２桁の11.96票という結果となりました。これも団結力の証であると感じております。

次世代が担っていく地域の医療が、適切な医療提供体制となるよう、福岡県から地域医療の充実を実現させ、福岡県から日本の医療をより良いものに変えていきたい、そう強く願い努力してまいりますので、皆様のご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

公益社団法人福岡県病院協会
会長 石橋 達朗

2017年をいかがお迎えでしょうか。新年明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって、良い年でありますことをお祈りいたします。

昨年の医療界での嬉しいニュースとしては、福岡市出身の大隅良典先生（東京工業大学・栄誉教授）がノーベル生理学・医学賞を受賞されたことでしょうか。また北九州市出身の森田浩介先生（九州大学理学研究院・教授）が113番の新元素「ニホニウム：Nh」を発見されるなど、日本の医学・科学の分野で明るい将来が感じられました。

しかし、一方では、4月の熊本地震、6月の熊本・宮崎を中心とする記録的な大雨など、自然災害の多い年でもありました。被災地の皆様方には心よりお見舞い申し上げます。熊本地震の際には、医師派遣、患者受入、物資支援など、福岡県医師会をはじめ多くの医療機関の皆様がご尽力されたことと思います。九州地区の国・私立の大学病院におきましても、九州大学病院がその取りまとめの窓口となり、被災地への物資支援をさせていただきました。各大学病院のご協力に感謝致します。本年は福岡県病院協会においても、福岡県が被災地となった場合にどのような医療救護活動などを行うのか、福岡県や福岡県医師会とも協力をして具体的な体制作りを進めることとしています。

また昨年は、大学病院を含む特定機能病院において、医療安全の体制整備の強化に努めた一年でもありました。6月の医療法施行規則（省令）などの改正により、特定機能病院における医療安全管理体制の強化が義務づけられました。これを受け、各々の特定機能病院において、医療安全管理に係る各責任者の配置、全死亡例の報告・検証体制の整備、内部通報窓口の設置、医薬品安全管理の強化、インフォームド・コンセントの実施体制の強化、診療録の確認体制の強化などの体制が整備されてきています。また、本年3月までには、高難度新規医療技術・未承認薬の管理体制の強化や外部監査体制の整備などを実施しなければなりません。これらの体制については、実質的には多くの特定機能病院で、一部、または同様の機能を有していましたが、これらを体系化し、また徹底した取組みを行うことにより、更なる医療安全の強化につなげていく必要があります。

さらに現在、厚生労働省では、特定機能病院に対して、医療安全等の確保の視点に立ち、管理者（病院長）を中心とした病院のガバナンス体制の在り方について、「大学病院等のガバナンスに関する検討会とりまとめ～患者の安全を第一に～」と題する取りまとめが行われています。これは、病院長の職務権限を明確化するとともに、病院長をサポートする体制の充実、病院運営に関する会議（合議機関）、病院運営に対するチェック・牽制などの在り方をとりまとめているもので、今後、法制化する動きとなっています。このような医療安全に関する強化の方向性は、各医療機関におかれても役立つものもあると思われますので、参考にしていただければと思います。

さて、昨夏のオリンピックでは、陸上4×100mリレーで日本チームが銀メダルを獲得したことは我々に大きな感動を与えてくれ、合わせて「連携の大切さ」も教わったように思います。本年は、地域医療構想の策定が、また診療報酬改定の検討がなされる年でもあります。更には薬価改定を毎年行うという話も出てきています。当協会でも、これらの動向や影響などの情報をいち早くつかみ、各種研修また当機関誌などを通じ情報交換に努めるとともに、冒頭申し上げた「災害対応の協力体制の整備」など当協会の皆様との「連携」が更に深まるよう努めてまいりたいと考えており、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

謹賀新年

公益社団法人 福岡県病院協会役員一同

役職名	氏　名	病院名及び役職
会　長	石橋達朗	九州大学病院　病院長
副会長	志波直人	久留米大学病院　病院長
〃	佐多竹良	産業医科大学病院　病院長
〃	井上　亨	福岡大学病院　病院長
〃	竹中賢治	福岡市立病院機構　福岡市民病院　院長
専務理事	平　祐二	医療法人　原三信病院　理事長兼院長
総務理事	上野道雄	国立病院機構　福岡東医療センター　院長
財務理事	澄井俊彦	国立病院機構　小倉医療センター　院長
企画理事	壁村哲平	福岡市医師会成人病センター　院長
理　事	安藤文英	医療法人　西福岡病院　理事長
〃	飯田三雄	公立学校共済組合　九州中央病院　病院長
〃	一宮　仁	国家公務員共済組合連合会　浜の町病院　院長
〃	江頭啓介	医療法人社団江頭会　さくら病院　理事長兼院長
〃	岡留健一郎	福岡県済生会福岡総合病院　病院長
〃	大塚　毅	宗像医師会病院　院長
〃	小嶋享二	福岡県立精神医療センター　太宰府病院　院長
〃	小柳左門	社会医療法人　原土井病院　病院長
〃	島　弘志	社会医療法人雪の聖母会　聖マリア病院　病院長
〃	津留英智	医療法人社団水光会　宗像水光会総合病院　理事長
〃	寺坂禮治	福岡赤十字病院　院長
〃	深堀元文	医療法人社団益豊会　今宿病院　理事長兼院長
〃	増本陽秀	飯塚病院　院長
〃	村中　光	国立病院機構　九州医療センター　院長
〃	吉田　正	地方独立行政法人　筑後市立病院　理事長兼院長
〃	吉村恭幸	一般財団法人　福岡県社会保険医療協会　会長
監　事	津田泰夫	福岡逓信病院　院長
〃	原　寿郎	福岡市立病院機構　福岡市立こども病院　院長
議　長	岡嶋泰一郎	社会保険仲原病院　院長
副議長	梅野守男	早良病院　院長
顧　問	今泉暢登志	医療法人済世会　河野病院　院長
〃	河野正美	医療法人済世会　河野病院　理事長
〃	瓦林達比古	公益財団法人　福岡県すこやか健康事業団　理事長
〃	久保千春	九州大学　総長　（福岡県病院協会前会長）
〃	八木博司	特定医療法人八木厚生会　八木病院　会長

（平成29年1月1日現在：五十音順）

第８回 福岡県病院協会　参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会報告

会員広報

◎公益社団法人 福岡県病院協会　専務理事　平　祐二

日　時　平成 28 年 12 月 6 日（火）
　　17：00 ～17：50
場　所　ホテルセントラーザ博多 3 階「橘の間」
　　福岡市博多区博多駅中央街 4 －23
出席者　病院協会参与 6 名
　　各種委員会正副委員長等　13名
　　役員　23名　　計 42 名

石橋会長が挨拶の後、座長となって議事を進めた。

1　参与の紹介（平専務理事）

・当日出席された 6 名の参与（花岡夏子参与、有馬千代子参与、成瀬岳人参与、鴫山一仁参与〔小林達也代理〕、堺祥子参与、中西裕二参与）を順次紹介し、参与は各々簡単に挨拶をされた。

2　第10回県民公開医療シンポジウムの報告（壁村運営委員長）

今年の県民公開医療シンポジウムは、9 月 17 日（土）に福岡市の「アクロス福岡」において開催した。今回も 147 名の方に参加を頂き、盛会裏に終了することができた。

テーマは「健康と最近の話題」で、国立病院機構小倉医療センター院長の澄井俊彦先生と、福岡市医師会成人病センターの壁村が座長を務めた。講演は、3 名の先生にお願いした。

講演 1 は「知って得する腸内細菌と健康の話」と題して、九州大学医学研究院病態制御内科学診療准教授の中村和彦先生に、講演 2 は「肥満・糖尿病の食事療法で知っておきたいこと」と題して、福岡大学筑紫病院内分泌・糖尿病内科教授の小林邦久先生に、講演 3 は「健脚長寿を目指して～サルコペニアとフレイルの予防～」と題して、佐賀整肢学園こども発達医療センター副院長高杉紳一郎先生に、それぞれご講演を頂いた。

その後、質疑応答の際には聴衆の方から多くの質問が寄せられ、また、お願いしたアンケートの回答内容からも、今回の講演内容に対する関心の高さが伺えた。なお、一昨年に比べると、参加者がやや減少しているが、これはシンポジウムの内容を医療関係者を対象とするものから、一般市民を対象とするものに変更したことによるものと考えられる。今後は、より一般市民向けの広報を充実させていきたいと考えている。

3　各委員会からの報告

ア　病院研修会

病院委員会委員長　上野　道雄
国立病院機構福岡東医療センター　院長

医療事故調査制度が平成 27 年度 10 月に施行された。平成 27 年度、病院委員会は、我々病院とその職員にとって影響の大きい医療事故調査制度をテーマで活動した。福岡県では県医師会が支援団体を担った登録事例は 16 例（平成 28 年 11 月 30 日現在）と、福岡県医師会方式に比し、3 倍近く、報告事例が増加した。県病院協会の参画病院（大学を含む）が院外専門委員の大半を派遣した。そして、3 月 11 日、「医療事故調査制度と院内医療安全」講演会、九州大学百年講堂を予定した。ところが、本企画の直前に日本医師会及び福岡県医師会の講演会があいついで予定された。本会の企画の成否が心配されたが、会員病院と有志の働きで成功裏に開催された。本会の実力と会員諸氏の友情に感謝します。

平成 28 年 4 月 14 日、熊本地震が発生し、4 月 16 日、本震が襲った。会員病院も DMAT、JMAT として、多くの要員を派遣した。隣県での地震であり、効率的な救援の難しさを垣間見る機会も多かった。支援側でも、円滑な支援ができないもどかしさを痛感したが、福岡県が被災する

とどうなるかと考えると、暗然たる思いが浮かばない人はいないと思われる。誰でも、被災状況や支援体制や支援要員に関する情報を一元管理して、人的資源等を有効に投入すると状況が一変すると考える。ところが、その道筋は多岐に別れ、議論も尽くされていない現状である。そこで、当会でも、役員会で素朴な議論を始めた。また、病院委員会の研修会を「福岡県が被災したら」をテーマに熊本地震の救援状況、大規模災害が起こった際の対応の指針、福岡県医師会の具体的対応計画の準備状況等を講演頂き、県病院協会の役員も参加したシンポジウムを開催予定です（3月15日、九大百年講堂）。奮って、ご参加下さい。

イ　看護研修会

看護委員会委員長　中川　朋子
福岡大学病院　副病院長・看護部長

本委員会は、看護委員会規定により、担当理事3名、4大学の看護部長4名、公的病院の看護部長3名、民間病院の看護部長4名の計14名により、本県病院の看護職員の資質向上を図るため、研修会の企画、運営を行っている。研修会のテーマは、看護界の動向を見据えた上で、看護職員のニーズや参加者の背景を考慮しながら検討し、年4回の研修会を実施している。参加者の背景は、職種では看護職がほとんどであり、経験年数は10年以上が60～70%を占めており、参加者は平均358名（平成27年度）で看護職員の資質向上への意欲を感じている。病床数で見ると半数以上の参加者が300床以上の病院からであり、中小病院からの参加者は少ない現状である。取り上げて欲しい研修テーマは、看護実践･教育関連、記録、接遇、倫理、医療安全などが例年上がっている。そのような中で､近年「地域包括ケア」､「認知症」について関心が高く、昨年より2年連続でテーマとして取り上げ、多くの参加者を集めている。

一方で、担当病院には、研修会の企画・運営における講師依頼、講義の調整、受付、アンケート調査のまとめ等すべてを任されており、負担も大きいと感じている。開催曜日の検討(現在は平日)も含め数年来の検討課題とされている。

【今年度の研修会予定】

第146回（6/28）：フィジカルアセスメントに関する内容
第147回（8/22）：倫理に関する内容
第148回（10/ 7）：認知症に関する内容
第149回（12/15）：地域包括ケアに関する内容

ウ　診療情報管理研究研修会

診療情報管理研究委員会委員長　西山　兼
九州大学病院　戦略企画課特定業務専門職

今年度は平理事から増本理事の担当変更があった。また、委員長・委員の退職等により、委員が大幅に交代となった。人選は退職ということもあり、昨年度から行ったことが功を奏した。それでも、研修会等の進め方について確認する必要があり､診療報酬改定が落ち着いた8月2日にリスタートを行うべき打合せを行った。

従来から「研修会を年2回開催」というルールがあったが、各病院の負担等も考慮して、年2回行うことで承認された。

内容についても「1日開催」ということもあり、午前中の講演には診療録に関する重点的テーマを行い、午後の講演にはタイムリーな情報を盛り込む流れを取ることなど、講演・シンポジウムの骨格を決めた。

具体的に午前中には診療録、サマリーを意識した「疾患概論」や「診療情報管理」の講演を今後、シリーズで行う案となった。午後の講演には、今年から始まった「全国がん登録」や、10月から開始した「病院指標の公開」での内容を盛り込む予定である。今後は、九州厚生局の適時調査等の「監査」に対応した内容や「開示」「DPC」といったキーワードも盛り込んだ内容での研修会を行う予定である。

今年度の第1回目は11月28日(月)開催となり、第2回目も2月21日（月）と仮決めを行った。

新しいメンバーに配慮し、早めの計画を行ったところである。また、事前の準備や当日の役回りにおいては、担当を明確にし、チームワークで乗り切っていきたいところである。

エ　栄養管理研修会

栄養管理委員会委員長　山口　貞子
九州大学病院　栄養管理室長

第65回栄養管理研修会を開催しました。研修のポイントは「診療報酬改定が4月に行われ、在宅での治療を目標とした医療連携のチーム医療が

重要視されています。団塊の世代の人が多い「高齢者の栄養管理」についての研修会です。今回、生活習慣病を中心に発症が多い疾患について、「病態の理解をしての栄養管理をいかにすべきかについて」でした。実施日は平成 28 年 8 月 27 日（土）10:20 ～ 16:30、場所は九州大学医学部百年講堂、参加人数は 240 人。今回は、予定より少ない人数でした。いつも看護師の参加が全体の半数はありますが、ちょうど看護師の研修会と重なったことも少なかった原因ではないかと考えられました。次にアンケート調査を行いましたので、簡単に報告します。回収率は 88.7％で、職種の内訳は約 7 割が管理栄養士（75％）、次いで看護師（17％）でした。研修会の評価結果は約 80％が「内容」については非常に良い、「理解」についてはよくわかった、「活用度」については非常に役に立つでした。参加した理由は、「テーマに興味があった」が一番多く、次が「業務に役立つ」でした。次回の研修会で希望されているテーマは、「低栄養」が一番多く、次いで「癌の栄養管理」でした。開催日については、平日よりも圧倒的に土曜日希望が 60％でした。ご希望と意見については、研修費を安くして欲しいとの意見もありました。講義については、大変勉強になったとの意見が多く聞かれました。

この結果を参考に次回の研修会を計画していきたいと考えています。

オ　臨床検査研修会

臨床検査委員会委員長　太田　りか
国家公務員共済組合連合会浜の町病院
臨床検査部技師長

病院システム管理研修会の名称を今年度より「臨床検査研修会」として開催する運びとなりました。壁村先生のご指導のもと、旬な話題をテーマとして研修会を企画しております。

平成 27 年度は「最近の統一化に向けた精度管理の動き」をテーマとしました。熊本大学病院検査部技師長池田先生より「医療資源としての検査データのデータベース化を目指した精度管理」の特別講演を、各専門分野より生化学・輸血・生理・微生物検査の精度管理の 4 講演をしていただきました。参加者は 90 名でした。検査の標準化と精度管理が進んでいる生化学検査においても、外部精度管理の評価が低かった場合の振り返り、原因追及が重要であり、輸血検査では、日々の機器管理・試薬反応性の記録、検査者の教育や技量評価、凝集の目合わせなどで管理する。生理検査は検査者の技術が検査結果に大きく左右するため、チェックリストを利用して、スキル評価・管理を行う。微生物検査は各施設で使用する培地、培養条件等も異なるため、標準化が困難であるが、標準菌株を用いた機器管理は必要と考えられる。各施設での精度管理に対する考え方や方法を聞き、自施設の取り組みの参考となりました。

精度管理には、コスト面で悩まされる点がありますが、平成 28 年度の診療報酬改定において、国際標準検査管理加算が新たに設定され、ISO15189 取得が条件となりますが、精度管理の重要性が増し、長期的には経費負担を軽減できるものと考えられます。

今年度の研修会のテーマは「臨床検査における教育と安全管理」としました。精度管理に通じる教育と医療の安心・安全を確保する内容とし、臨床検査技師の人材育成、パニック値発生時の問題点と対応、採血時の安全管理の 3 講演を企画しております。

カ　リハビリテーション研修会

リハビリテーション委員会副委員長　永友　靖
医療法人社団誠仁会夫婦石病院
リハビリテーション部長

これまでの研修会実績から、リハビリテーション研修会ではリハビリテーション専門職以外の医師や看護師の積極的参加が課題となっている。

そこで、本年度は、リハビリテーションにおける看護師の役割に焦点を当て、去る 10 月 1 日、『地域包括ケアを推進するリハビリテーション看護～くらしにつなげる看護の課題』をテーマに、研修会を行った。

基調講演は、宮脇晶子氏（小倉リハビリテーション病院）より「くらしにつなげるリハビリテーション看護」というテーマでお話しいただいた。また、「くらしにつなげる看護の課題」をテーマにシンポジウムを開催し、杉本智波氏（聖マリア病院）、梶原由美氏（聖マリア病院）、國武真澄氏（博愛会病院）、小玉孝子氏（訪問看護ステーションくるめ）、諫武稔氏（福岡青洲会病院）から意見を

いただいた。

参加者は、235 名（会員 177 名、会員外 58 名）であった。職種別の内訳は、看護師・准看護師 55%、理学療法士 21%、作業療法士 13%、社会福祉士・介護福祉士 4%、言語聴覚士 2%、その他となっていた。

参加者数は、いつもの研修会に比べ若干少なかったが、これからのリハビリテーション看護に関する課題と方向性が示されたように思われる。

協会会員施設におけるリハビリテーションは、他県に比べサービス量としては回復期・生活期中心に充実していると考えられるが、質の向上には課題も少なくない。チーム医療・多職種協働の推進、医療と介護の連携などの課題もある。報酬改定のない本年度は、これらの課題に関する研修会を年度内に実施の予定である。

キ　経営管理研究会

経営管理委員会委員長　古賀　一幸
社会医療法人北九州病院北九州総合病院　副院長

1　委員会報告

① 第 1 回経営管理委員会（平成 28 年 7 月 8 日）
・担当理事　事務局長の交替について
　新担当理事　澄井　俊彦 理事
　国立病院機構小倉医療センター　院長
　新事務局長　千々和　勝己 局長
・協議事項
　平成28年第 1 回経営管理研究会開催についての打ち合わせ
② 第 2 回経営管理委員会（平成 28 年 11 月 9 日）
・第 1 回経営管理研究会の反省
・第 2 回経営管理研究会について
　日時、講師等の候補の決定と今後の交渉について打ち合わせ
・次回第 3 回経営管理委員会の開催予定について
③ 第 3 回経営管理委員会（予定）
　（29 年 1 月か 3 月開催予定）
・仮　題
　平成29年度経営管理委員会の取り組み方針について
　平成29年第 1 回経営管理研究会開催に向けての打ち合わせ

2　研究会開催報告

① 第 1 回経営管理研究会
・開催日時　平成 28 年 8 月 24 日（水）15：00
・会　場　九州大学医学部百年講堂　1 F
　「大ホール」
・テーマ　「保険診療にける施設基準・適時調査について」
・講　師　厚生労働省九州厚生局指導監査課
　指導第二係長　萩尾（はぎお）　円晴（みつはる） 氏
・参加者　284 人（会員 209 人　会員以外 75 人）

厚生局による適時調査の実態を聞きたいという要望は急性期病院から慢性期病院に至るまで幅広く寄せられていましたので、多数の参加をいただきました。

実務的な指導内容を担当官から懇切に説明があり、受講者からは「これを機に日常業務を顧みて、再度点検の必要性を感じた」等の声が聞かれました。

ただ、反省としては、まったく質疑ができなかったことや、具体的な事例がなかったので臨場感に少し乏しかったという意見も寄せられました。

② 第 2 回経営管理研究会（予定）
・開催日時　平成 29 年 2 月 27 日（月）15：00
・会　場　九州大学医学部百年講堂　1 F
　「大ホール」
・テーマ　人事・労務に関するもの
・講　師　木沢記念病院（岐阜県）
　事務部長　佐合　茂樹 氏

ク　医療事務研究会

医療事務委員会委員長　服部　進
国家公務員共済組合連合会新小倉病院　医事課長

〔平成 27 年度〕
第 115 回医療事務研究会開催
日　時：平成 28 年 3 月 29 日（火）
場　所：九州大学医学部百年講堂
　福岡市東区馬出 3 － 1 － 1
講　師：（株）ヘルスケア経営研究所
　副所長　酒井　麻由美 先生
研修内容：「2016 年診療報酬改定の概要」

2016 年 4 月は 2 年に 1 度の診療報酬実施の年であり、また 2018 年（平成 30 年度）に予定されている診療報酬と介護報酬の同時改定など、2025 年（平成 37 年）を見据えた改定となっている。参加医療機関の規模別・機能別に沿ったアドバイ

スを酒井先生から講演頂き、診療報酬改定の参考になればと開催し、271 名の方に参加していただいた。

〔平成 28 年度〕

第 116 回医療事務研究会予定

日　時：平成 29 年３月下旬

場　所：九州大学医学部百年講堂
　　福岡市東区馬出３－１－１

講　師：ミッション ウィル
　　代表　田中　恵子 先生

研修内容：「事務職員こそ病院経営を支えるキーマン」
　　～“接遇とコミュニケーション”
　　患者の受療行動を支援しよう～

今回、事務職員が病院経営を支えているということを再認識するため、ミッション ウィル代表田中恵子先生に講演していただく予定。接遇やコミュニケーション等も含め講演していただき、事務職員の意識向上を図れればと考えている。

４　参与のご意見

① 花岡参与（福岡県看護協会 会長）のご意見

・看護研修、栄養管理研修、リハビリテーション研修などでは、いずれも看護師が関わる業務であるが、それぞれの連携がうまく取れている。

・研修会のテーマは、非常にタイムリーな問題を取り上げられている。

・大学病院、民間病院の看護部長さんたちが、研修を企画するというのは、非常にまれで、ご苦労も多いでしょうが、今後も続けてほしい。

② 有馬参与（福岡県薬剤師会 副会長）のご意見

・各委員会が熱心に活動されていることが、よくわかった。

・診療報酬の改訂や、適時調査に関わる研修は、薬剤師も大変興味のあるものだ。

・薬剤師も地域包括ケアに関わってきており、ケア会議への参加や在宅支援に向けて、研修等を行っている。

・機関誌「ほすぴたる」の愛読者で、隅から隅まで読ませてもらっている。様々な施設、職種の方が執筆されており、大変興味深い。

③ 成瀬参与（福岡銀行公務金融法人部長）のご意見

・各委員会が、現在の医療環境を踏まえて、医療サービス、地域医療の向上に向けて、充実した活動をされていることが分かった。

④ 小林氏(西日本シティ銀行鴫山参与の代理)のご意見

・各委員会の活動は、活発に行われている。

・熊本地震や、博多駅前の陥没事故があったことから、BCP に対する重要性が認識されている。当銀行が実施した BCP に関する研修にも、多くの方が参加された。その関連で、災害時の連携をテーマにした３月の病院研修に期待している。

⑤ 堺参与（福岡県弁護士会 弁護士）のご意見

・熊本地震で、自然災害に対する危機管理も注目されているが、病院内でもショッキングな事件が起きており、そういった事態に対応できるような、危機管理体制も必要だ。そのためには、日常的な人間関係などのバックグラウンドを充実させる必要がある。

⑥ 中西参与（日本公認会計士協会北部九州会 公認会計士）のご意見

・非常に、積極的な委員会活動が行われていることが分かった。

・平成 30 年 4 月から、一定以上の規模の法人は公認会計監査を受けなければならなくなる。これは、ガバナンスや、透明性の向上を目指すものだが、直接的なメリットが分かりにくいという意見もある。実際には、監査で数値を見られることが、経営の安定化や信頼性の向上に繋がるものだと考えている。

＊竹中副会長から追加のご意見

県民公開医療シンポジウムは、今年で 10 回目となるが、当初は医療費の縮減を意識して、県民に医療体制について考えてもらうことを目標にスタートした。その後は、医療や診療に関わる情報もテーマとして取り上げてきている。今後は、地域医療構想の策定や、平成 30 年度に介護費、医療費の改訂を控え、医療提供体制を考え直すような方向へ、さらにテーマを掘り下げていきたいと考えている。その際には、是非参与の皆様のご意

見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

最後に、平専務理事が出席者に謝辞を述べ、この懇談会の経緯について簡単な説明を行った。その上で、本日頂いたご意見を各委員会の研修会や県民公開シンポジウムの企画に活かしていくと述べ、懇談会は終了した。

会員名簿変更のお知らせ

◎福岡県病院協会事務局

会員名簿ページ	施設名称	項目	変更内容
1	博愛会病院	診療科目	乳腺外科（削除）
2	医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院	病床数	一般 107床、療養 92床、計199床
		診療科目	婦人科（追加）
2	医療法人永野病院	診療科目	腎臓内科（追加）
3	福岡保養院	病床数	精神 340床、計340床
3	井口野間病院	管理者	杉原弘治
5	疋田病院	管理者	宮崎宏之
		病院代表者	理事長　疋田好太郎　（会員）
5	国家公務員共済組合連合会 千早病院	病床数	一般186床、計186床
6	福岡市立病院機構 福岡市立こども病院	診療科目	総合診療科、アレルギー・呼吸器科、小児感染症科、小児神経科、腎疾患科、内分泌・代謝科、こころの診療科、放射線科、産科、新生児科、麻酔科、集中治療科、循環器科、心臓血管外科、小児外科、形成外科、整形・脊椎外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、脳神経外科、小児歯科　（診療科目、名称の変更）
6	医療法人相生会福岡みらい病院	電話番号	092-662-3001
		病床数	一般 179床、療養239床、計418床
		診療科目	整形外科、循環器内科、外科、脳神経外科、リウマチ科、麻酔科（追加）
7	社会医療法人財団白十字会 白十字病院	管理者	渕野泰秀
		診療科目	血管外科（追加）
7	福岡鳥飼病院	病床数	一般　57床、療養　120床、計177床
		診療科目	婦人科（削除）
9	医療法人みなみ　粕屋南病院	郵便番号	811-2129
		所在地	糟屋郡宇美町神武原6丁目2番7号
12	社会保険稲築病院	診療科目	神経内科、泌尿器科、整形外科（追加）、外科（削除）
13	頴田病院	診療科目	総合診療科、婦人科（追加）、リハビリテーション科（削除）
13	小竹町立病院	電話番号	09496-2-0282
14	社会保険田川病院	診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科口腔外科、放射線診断科、放射線治療科、精神科、老年内科（診療科目、名称の変更）
		病床数	一般　300床、療養　35床、計　335床

14	甘木中央病院	病床数	一般　96床、療養　92床、計　188床
17	公立八女総合病院	開設年月日	昭和35年４月１日
19	社会保険大牟田天領病院	診療科目	産婦人科→婦人科
20	新小文字病院	病床数	一般　214床、計　214床
21	健和会大手町病院	病床数	一般　499床、計　499床
21	北九州総合病院	郵便番号	802-8517
		所在地	北九州市小倉北区東城野町1番1号
		診療科目	内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、リウマチ科、人工透析内科、放射線治療科、放射線診断科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、胸部外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、耳鼻咽喉科、頭頚部外科、泌尿器科、産科、婦人科、小児科、救急科、麻酔科、眼科、皮膚科、リハビリテーション科、病理診断科、臨床検査科（診療科目、名称の変更）
22	東和病院	管理者	益川眞一
22	北九州市立八幡病院	診療科目	消化器外科（追加）
9	戸畑総合病院（旧名称、医療法人医和基会牧山中央病院）	郵便番号	804-0025
		所在地	北九州市戸畑区福柳木1-3-33
		病院数	一般137床、療養　56床、計　193床
		診療科目	耳鼻咽喉科（追加）

（平成 29 年１月現在）

第２回 経営管理研究会のご案内

開 催 日　平成29年２月27日（月）　14：30～17：00

場　　所　九州大学医学部百年講堂１F「大ホール」
福岡市東区馬出３丁目１－１

参 加 料　会 員 病 院　　1人につき　3,000円
会員外病院　　1人につき　4,500円

参加申込締切日　平成29年２月17日（金）

テ ー マ　「人事・労務管理」

講 演 Ⅰ　「実務者からみた院内活性化の人事・労務」

社会医療法人厚生会木沢記念病院　事務長・病院長補佐　佐合 茂樹 氏

＊お問合せは福岡県病院協会事務局（TEL 092-436-2312／URL http://www.f-kenbyou.jp）までお願いいたします。

New face

医療法人社団高邦会 高木病院　病院長
（国際医療福祉大学 福岡保健医療学部　教授）　工藤　祥（しょう）

新任のごあいさつと高木病院の紹介

病院長室にて

平成 28 年 4 月 1 日付けで高邦会高木病院病院長に着任し、佐賀県医師会員から福岡県大川三潴医師会員となりました。ここで自己紹介と高木病院の現況を述べさせていただきます。

【私の略歴】

私は、出身は大分市で、昭和 51 年九州大学卒業と同時に松浦啓一教授（のち佐賀医科大学学長）の放射線科に入局、広島の放射線影響研究所研究員、米国のエール大学セント・ラファエル病院レジデント、テキサス大学 MD アンダーソン病院フェローを経て、九大放射線科に務めたのち、昭和 60 年より佐賀医科大学・佐賀大学に 26 年間在籍しました。そのうち放射線科教授としては 17 年間です。その後、平成 23 年に九州国際重粒子線がん治療センター開設事業に移り、このたび高木病院に着任となりました。高木病院とは長い間非常勤でのお付き合いがありましたが、常勤は初めてです。病院管理については佐賀大学で副病院長を 2 年、重粒子線がん治療センターでセンター長を 5 年弱勤めましたが、放射線部門や臨床教育部門の担当が主であったので、総合病院の管理責任者という立場には改めて緊張を覚えています。

【高木病院の診療圏】

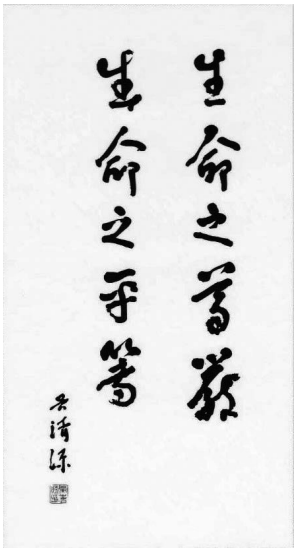
高木病院の診療圏は、東西に細長い久留米保健医療圏の西端に位置する大川三潴医師会圏内（大川市、三潴郡大木町、久留米市城島町・三潴町）に加え、久留米市南部、有明医療圏の柳

高木病院全景

川市、みやま市、大牟田市、八女・筑後医療圏の筑後市、広川町、八女市西部、そして、佐賀県東部、佐賀県南部に及んでいます。救急車の受け入れは年間約 2,800 件で、大川、柳川、三潴、佐賀の各消防署が主なものです。大川市は、筑後川を挟んで佐賀市と接しており、佐賀市の自宅から高木病院まで車で 20 分程度ですし、有明海沿岸道路が完成すると佐賀県からの患者さんは更に増えると思われます。

【高木病院の特徴】

高木病院は、明治 43 年に高木眼科として開設され、国際医療福祉大学・高邦会グループの母体となった病院で、一般、療養、障害、ICU、HCU 合わせて 506 床の臨床研修病院です。初期研修医は 1 学年 8 名を受け入れています。「生命の尊厳、生命の平等」の理念の下、以前より救急医療に力をいれてきましたが、最近は高度医療に対処すべくセンター方式をとり、歴史と実績を誇る不妊センターをはじめ、がんセンター、呼吸器センター、循環器センター、肝臓病センター、腎・透析センター、予防医学センター、産業健診センターなどによる、急性期医療から、慢性期、予防までのトータルケアを行っています。また、グループ施設である福岡山王病院、柳川リハビリテーション病院、柳川療育センター、みずま高邦会病院、介護老人保健施設水郷苑、柳川リハビリテーション学院、大川看護福祉専門学校などとも緊密に連携し、隣接する国際医療福祉大学大川キャンパス（福岡保健医療学部：理学療法、作業療法、言語聴覚、医学検査の 4 学科）では、多くの職員が教職を兼任しています。医師の出身は佐賀大学、久留米大学、九州大学、福岡大学などが主で、各大学の診療科医局とは良好な関係を保っています。また、国際医療福祉大学成田キャンパスに平成 29 年度開設の医学部との連携も視野に入ってきます。



故 呉清源氏（棋士、1914～2014）揮毫による「高木病院の理念：生命の尊厳、生命の平等」

【病院長として】

病院長に着任して最初の課題は、平成 28 年度健保改定で示された、一般病棟 7 対 1 看護体制の維持に必要な看護必要度 25% 以上の項目でした。看護必要度についての院内広報、項目のチェック、記録漏れの防止など、委員会やミーティングなどで努力を重ね、申請に必要な平成 28 年 9 月分の実績はクリアできましたが、その後も努力は続いています。1,200 名のスタッフを擁する病院の運営では、 4 名の副病院長（内科、外科、産婦人科、看護）、各診療部門長、および事務方の協力のもと安全で安心できる医療を心掛けていますが、処方・処置のミスや患者の無断離院などの小さな事件は避けられず、それが大きなものにならぬよう、日々対処に追われています。医療安全管理委員会、院内感染対策委員会など 20 以上に及ぶ院内委員会や定期的な講習会で日常診療の点検や技術の向上を図るとともに、職員のワークライフバランスにも配慮しています。また、医療連携室とともに近隣の医師会、医療施設との連携に力を入れており、患者紹介、逆紹介の比率は年々上昇傾向にあります。更に、地域住民を対象とした健康講座をほぼ毎月開いており、私も着任早々「画像診断でここまでわかる」という話をしました。今後とも、病む人の気持ちを汲み、高度な医療を安全に優しく行うとともに、患者、家族、かかりつけ医、介護福祉施設、医師会、行政などと一体となった地域ぐるみのケアを実践していきたいと思います。

New face

労働者健康安全機構 九州労災病院
院長 岩本 幸英

新任のご挨拶

2016年3月末をもって、20年間務めた九大整形外科の教授職を定年退官となり、4月1日から北九州市小倉南区にある九州労災病院の院長として勤務しています。どうぞよろしくお願いします。

九州労災病院のご紹介

本院は、昭和24年に労働災害の患者さんの治療を目的として設立された、全国で最初の労災病院です。また病院設立と同時に、わが国初のリハビリテーションセンターが開設された「リハビリテーションのメッカ」としても知られています。設立以来、労災の患者さんの治療に力を注ぐ一方で、診療科を次々に増設することにより総合病院としての機能を整備し、北九州の基幹病院としての機能を最大限に発揮するようになりました。さらに平成23年5月には、旧病院があった小倉南区葛原高松から、アクセスの良い小倉南区曽根北町の旧・北九州空港跡地へ新築移転しました。新築移転に伴い、ヘリポートや最新の医療機器の導入により病院の機能を格段に強化し、現在、24時間体制で高度な医療技術を駆使した早期診断、集中治療に努めているところです。患者さんは、入院、外来とも、小倉南区、京都郡、行橋市の住民が中心です。私は30数年前の研修医時代に2度本院の整形外科に勤務した経験があり、今回の院長就任は里帰りのようなものです。医師としての基盤を形成してくれた本院と地域住民の皆様に恩返しをするつもりで、日々院長業務に励んでいます。

本院の今後の方向性

・地域の急性期医療を担う基幹病院として

地域の基幹病院として、すべての診療科がかかりつけ医との連携、救急体制を強化し、地域住民の皆様の期待に応えて参ります。

・がん診療の強化

従来、外科、内科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科などで取り扱ってきたがんの診療体制をさらに充実させる一方で、昨年4月から整形外科の中に、骨・軟部腫瘍外科を立ち上げました。北九州市で唯一、骨軟部腫瘍を取り扱う専門施設として、多数の患者さんをご紹介いただいております。本院は今後さらに、全診療科におけるがん診療の充実を図りたいと思っています。

・救急、災害医療体制の充実

本院は、今後さらに救急医療体制の充実を図ります。また当院は、昨年4月に災害拠点病院に認定されました。今後、予測不能な大災害に適宜対応し、地域の皆様の期待に応えていきたいと思います。

・勤労者医療の充実

地域の基幹病院としての役割に加え、勤労者医療の充実は、本院のもう一つの大きな使命です。従来どおり労働関連の疾患の治療と健診、勤労者のメンタルヘルスケア、生活習慣病の予防・治療、脳卒中などの職場復帰支援に取り組む一方、今後はがん患者の就労・職場復帰支援にも取り組んで行きたいと思っています。

わが国の医療情勢は大変厳しい時期を迎えており、今後、医療提供体制も大きく変動することが予想されます。本院は今後、病病連携・病診連携をさらに充実させ、地域の基幹病院として、住民の皆様に「安全で良質な医療」を提供し続けていきたいと思っております。皆様のより一層のご指導とご支援をお願い申しあげます。

医療経営が厳しい時代を迎えて

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
病院長 島　弘志

岡留先生と今泉先生の推薦で昨年の９月から中央社会保険医療協議会の下部組織である日本病院団体協議会の診療報酬実務者会議と四病協の医療保険・診療報酬委員会に日本病院会の委員として毎月２回上京することになり、段々忙しくなってきたなと思っていました。

岡留先生の「九州にいち早く情報を持ってきてくれ」との言葉に分かりましたと答えたものの十分に役目を果たせていないなと感じていたのですが、そろそろ１年たったので、どんどん発信しようと思っていた矢先の８月頃に診療報酬改定に係る特別調査検討委員会の委員を依頼された事を皮切りに、安藤先生と交代した中医協関連の入院医療等の調査・評価分科会の委員、日本病院会の診療報酬・病院経営検討委員会の委員長、更には日本医師会の社会保険診療報酬委員会の委員に任命され、おまけに本来の日本病院会の社会保険診療報酬委員会の会議も始まり、上京の機会が増えるとともに極めて多忙になってきました。

これらの委員を依頼された時、病院経営が芳しくないこの時期に受けていいものだろうかと思いました。然し乍ら、経営も個人のスケジュールもピンチだからこそチャンスに出来ると信じ受けることにしました。実際に参加してみると皆さん多忙な中で時間を作って建設的な発言をされていますので、私も頑張らねばと思っています。そして新しい情報が次々と入ってきますので色々考えさせられますし、良い意味で刺激になります。情報発信の内容も豊富になると考えています。

さて地域医療構想の策定が今年中には日本全体で出来上がる予定ですが、2025 年に医療施設数がどれくらい減っているかは構想以上に激しいかもしれません。2000 年に 9,000 以上存在した病院数は 2015 年に 7,500 に減少していますが、厚生労働省は更に 1,000 病院減れば人口当たりの病床数が適正化すると考えているようです。

2015 年に厚生労働省が 2016 年の診療報酬改定により７対１病床を９万床減らすと宣言していましたが、日本病院団体協議会のアンケート調査では１万床位は減っているものの、とても９万床という数字には遥か及ばないと思われます。経営の観点からは、急性期のどの医療施設も必死に生き残りを図っているのが分かります。又、消費税を患者負担させない事は、日本医師会の考えが採用されて現在に至っていますが、病院経営を逼迫させる要因の一つになっています。厚生労働省は、消費税が二桁になるまで対応しないと言っていますので、平成 31 年 10 月以降でなければどうにもなりません。早く社会復帰させる為に最新の薬を投与する、或いは精度の高い検査や最新の手術を施行すればするほど赤字になるというのは如何なものかと思われます。

医療界全体に目を遣ると昨年度の医療費がついに 41 兆５千億円となり、更に今後も増えていくと思われますが、このまま混合診療を認めないで皆保険制度で高質の医療を続けることは不可能な時代になっているのではないでしょうか。実際に高度先進医療という名の混合診療を行っているのですし、もっと民間の保険を活用し、皆保険で必要最低限の医療を保証する制度に切り替える時期に来ていると思われます。

今年度の診療報酬改定がホップ、30 年度がステップ、32 年度がジャンプで今後の日本の医療の方向性を決定するとのことですが、診療報酬改定で立てかけた梯子を登らされ、気が付くと梯子は外されて上に向かう梯子をまた昇る事を何回繰り返してきたでしょうか。今後もこれは繰り返し行われるに違いなく、32 年度改定に生き残った病院だけで今後の日本の医療が行われていくとは思えません。今まさに日本の医療の転換期に突入したと言えるこの時期に、医療行為は、非営利行為であるが、医療経営は営利経営でなければならないのは自明の理であることを肝に銘じて患者の為になる医療を行ってまいりましょう。

看護の窓

「つながる看護」を目指した看護師教育

福岡県済生会二日市病院
副看護部長　山本 美子

福岡県済生会二日市病院は、済生会の施薬救療の精神に基づき「やさしさとあたたかい心のある医療・福祉」を理念に掲げ、地域では急性期医療（病床数260床、地域医療支援病院、災害拠点病院、２次救急医療指定病院）を担い、医療・福祉を連携させたきめ細かなサービスの提供を推進しています。

「時々入院、ほぼ在宅」。2025年問題の対応として厚生労働省の方針を表した標語です。この、国が目指す地域包括ケアシステムにおける役割を果たす為に、皆様の施設においても退院支援機能強化に注力されている事だと思います。今回は当院の“退院支援強化”を目指した今年度の教育活動について紹介します。

退院支援体制の中での看護師の役割は重要です。各病床機能に合わせて“求められる看護”をしっかりと行い、次の療養場所へ引き継ぐことが“成否の鍵”と言っても過言ではありません。では、“求められている看護とは何か”それは、① 標準的な治癒過程を辿り（早期回復）、患者がよりよい状態で次の療養場所へ移行できる ② 暮らし（在宅）を見据えた療養支援の２点です。言い換えますと“次の療養場所へつなぐ”“療養と暮らしをつなぐ”つながる看護の実践です。“退院支援強化”の為には、つながる看護を実践できる看護師育成が急務と考えました。そこで、今年度の教育委員会の活動テーマの一つを「患者のより良い変化を目指した早期離床の実践により看護の価値を実感する」と挙げました。合併症を予防しADL低下の防止が早期回復に繋がります。さらに、入院中に身体機能や認知機能の低下防止を看護師が意識することで、患者がよりよい状態で次の療養場所へ移行でき、退院後の生活が患者の意向にそったものに変化します。こういったことを実感できるようにと、研修⇒実践⇒語る会を連動したプログラムにしました。

１．実践的知識の場“語る会”を活用

「早期離床の為の看護目標の立て方」「ベッドサイドで行う効果の高いリハビリ」「病院で認知症の人を支える」の研修を受講し新任期２年目看護師は“早期離床”３年目看護師は“在宅療養支援”をテーマに看護を語る会 その１・その２でそれぞれ事例発表をします。ラダーレベルⅡ・Ⅲは、退院支援看護師とコラボして「ツナカン[*1・2]大会」で事例を発表。ラダーレベルⅢ・Ⅳの必須研修には「地域連携と在宅療養支援」を組み込み自部署の在宅療養支援の充実に努めてもらいます。併せて今年度の倫理研修のテーマは「早期離床と倫理」とし倫理的視点に立って早期離床を考えるという試みをしました。

ここまで述べたところで、お気づきかと思いますが、当教育委員会は“語る”文化を大事にしています。語る側は達成感と内省、聞き手は実践的知識の獲得が出来ます。以前２年生の事例について「フレッシュな感性に感動したよ」と当該病棟の先輩看護師に何気なく話したところ「今度のうちの３年生の事例もとってもいいですよ。期待して下さい」と誇らしげな笑顔で返答したのです！ 看護を語り発表するという

事は、当時者のみならず所属部署のやりがい感に良い影響がある事を実感した瞬間でした。今年度の語る会が楽しみでもあり、また内容いかんによっては、大いに反省する材料になります。今からドキドキわくわくしています。

＊1 つな看（缶）
ツナ缶は長期保存可能で品質が低下せず、食材が無い時の主婦の強い味方。
料理のバリエーションも豊かです。私達も地域住民の身近にいて頼りになる存在でありたい。そして、看護職はもちろん、地域の多職種と繋がり、切れ目のないケアをつなげていく。“つながる看護”の意

＊2 ツナカン大会
つな看実践（つながる看護）事例をギュッと凝縮して（缶詰状態）皆で実践的知識を共有する場

2．訪問看護師との同行訪問研修

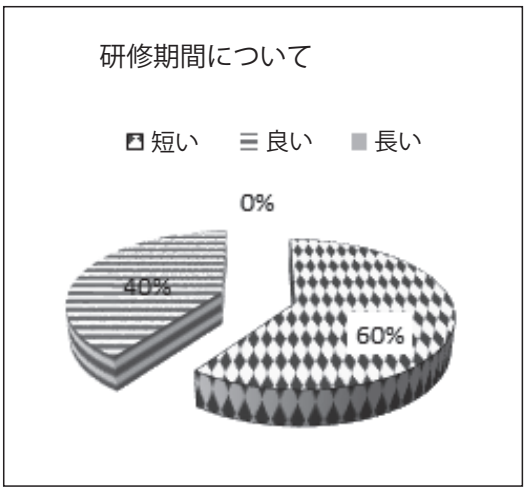
暮らしを見据えた療養支援には、看護師が退院後の暮らしをイメージできる力が重要です。そこで、今年度から同グループの訪問看護ステーション“芦田鶴”での半日研修を開始しました。対象は各部署の退院支援看護師及び認定看護師、糖尿病指導療法士等です。第1班は、10月に9人終了し第2班は12月に予定しています。第1班にアンケート調査した結果、参加者は「研修は有意義」であり退院後の患者の様子が「よりイメージ出来る様になった」「看護や退院支援についてモチベーションが上がった」と応えました。また、入院中に重要なこととして「家族の介護意欲を低下させない為の支援計画」「在宅でも継続できるケアの工夫」等自分たちに不足していることを具体的に掴んでいました。今回の取り組みを多角的に振り返り、参加者各自の学びを集約し、退院支援の機能強化に役立てたいと思っています。また、研修期間も含め、訪問看護ステーションと協議し、より効果的な研修プログラムとなる様に次年度に向けて検討していく予定です。

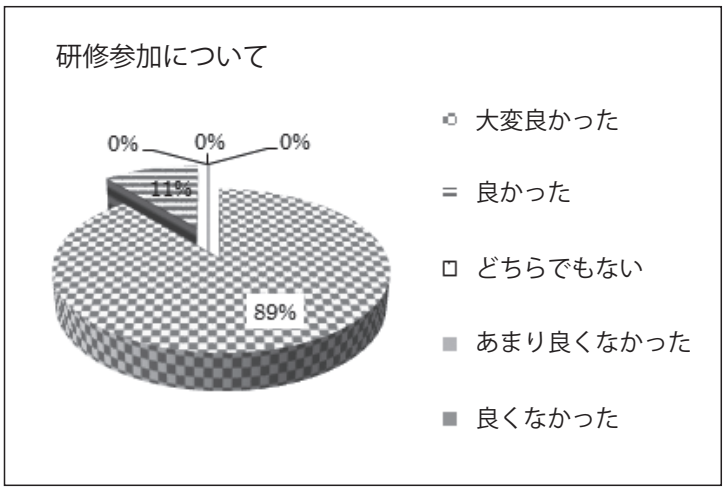
3．ちくし学び舎教育ネットワーク

最後に筑紫地区の教育活動を紹介します。平成22年に福岡大学筑紫病院の呼びかけにより当院の他、高山病院・小西第一病院の4病院を幹事会として、ちくし学び舎教育ネットワークを平成24年に設立し運営しています。“教育で繋がろう”“地域の看護人財は地域で育てる”を合言葉に研修会や発表会等を開催しています。昨年からは、部会として「ちくし学び舎皮膚・排泄ケアネットワーク」が結成され、共通のストーマ専用のサマリ用紙を作成し、地域での“切れ目のないストーマケア看護”に挑戦しているところです。このように、地域の看護職が互いに学び合い連携強化に貢献できる活動を、一歩ずつ着実に行い、地域の実情にあった会に成長していきたいというのが幹事会の共通の思いです。

以上三点紹介してきました。今後も院内外の資源を活用し地域包括ケア時代に求められる看護師像を模索しながら、教育担当副部長として尽力していく所存です。

訪問看護同行訪問研修の様子





訪問看護同行訪問研修アンケートより

【成果は？】上位３項目（複数回答）

1．退院後の患者の様子が今までよりイメージ出来る様になった

2．退院支援や看護についてのモチベーションが上がった

3．在宅での療養が可能な患者像が広がった

【入院中から“特に重要だ”と思う事】上位３項目（複数回答）

1．家族の介護力を知り、意欲低下をきたさないための支援計画

2．在宅での室内環境に合わせた日常生活訓練

3．在宅でも無理なく継続できるようにケアを工夫する

第２回リハビリテーション研修会のご案内

テ ー マ　「認知症の最近の取組み」

開 催 日　平成29年２月25日（土）13：00～16：40

場　　所　ナースプラザ福岡（福岡市東区馬出４丁目10－１）

参 加 料　会 員 病 院　1人につき　2,500円
　　会員外病院　1人につき　3,500円

申込締切　平成29年２月15日（水）

基 調 講 演

「認知症の治療を考える」
講師：田北メモリーメンタルクリニック　院長　田北　昌史

パネルディスカッション　「認知症　私たちはこう対応する」

1「急性期病棟での対応」
講師：独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター
看護師　藤原　秀美

2「理学療法診療場面での関わり」
講師：今津赤十字病院　リハビリテーション課長　白石　浩

3「作業療法士としての関わり方」
講師：西九州大学リハビリテーション学部　准教授　上城　憲司

4「言語聴覚療法診療場面での関わり」
講師：健康リハビリテーション内田病院　言語聴覚士　藤川　仁

5「通所施設での工夫と対応」
講師：小規模多機能施設めおといわ「ゆい」 施設長　党　一浩

6「在宅復帰支援での関わり」
講師：医療法人静光園 白川病院　社会福祉士　竹下　一樹

7「見つめて 触れて 語りかけて 認知症ケア ユマニチュードとは」
講師：特定医療法人原土井病院　作業療法士　安武　澄夫

＊お問合せは福岡県病院協会事務局（電話092-436-2312）までお願いいたします。
＊ホームページを開設しましたので、インターネットからも参加申込みができます。
〈URL http://www.f-kenbyou.jp〉

ニワトリ、酉、そして医学と鶏

国立病院機構 九州医療センター　名誉院長
学校法人原学園 原看護専門学校　学 校 長　朔　元 則

ニワトリ

ここ数年1月号のLetterではその年の干支に因んだ話題を取り上げているので、今年も鶏の話題から始めさせていただく。

ニワトリ（鶏、学名はGallus gallus domesticus）は代表的な家禽として、世界中で飼育されていることは衆知のことである。ウシやブタに比較して狭い場所で少ない飼料で飼育可能であるし、ウシ（ヒンドゥー教）やブタ（イスラム教）と違って、ニワトリを食することを禁忌するとする宗教も存在しないことを考えると、ニワトリの飼育は今後世界で益々増加していくことであろう。

ニワトリは東南アジアの密林や竹林に生息していたセキショクヤケイ（学名Gallus Gallus）を起源とする説が有力であるが、その原種そのものは交配が進んでしまって、遺伝的に純粋な種はもう存在していないということである。

家禽化については、ヒツジ、ヤギ、ブタと同じ頃の紀元前8000年頃、あるいはウマと同じ頃の紀元前4000年頃と考える説があるようである。

家禽化された後に、中国南部、東南アジアからインダス川流域を経て西アジア、エジプトへ伝わるルート、北へ向かって中国を北上するルート、マレー半島からインドネシア、南太平洋諸島へ南下するルートで全世界に拡がっていったと考えられている。

時告げ鳥

日本列島へニワトリが伝来したのは紀元前200年頃で、前述の北方ルート経由によるものと考えられている。弥生時代のニワトリは、現代の食肉用、採卵用の品種とは異なり、小型で現在のチャボ程度の大きさのものであった。

古代の日本社会においては、ニワトリは夜明けの時を告げる神聖な生物と考えられていた。古事記の天岩戸伝説における「常世の長鳴鳥を集めて一斉に鳴かせた…」という記述は皆様よく御存知のことと思う。古事記が完成したのは712年で、この時代はすでに天武天皇による肉食禁止令（675年5月）によって、ウシ、ウマ、イヌ、ニホンザル、ニワトリを食べることは禁じられていた。ニワトリは専ら「時告げ鳥」として祭祀用に、あるいは闘鶏用（日本書紀にすでに記述がある）としてのみ飼育されていた模様である。

さて雄鶏が時を告げる時の「コケコッコー」という鳴き声であるが、江戸時代は東天紅（トウテンコウ）と表現されていたそうである。多分中国でそのように表記していたからであろう。英語ではクック ドゥードゥルドゥー　cock-doodle-dooと表現されることは私も知っていたが、他の言語については全く知らなかったので、この機会にそれぞれの言語圏に居住経験のある友人達に尋ねたり、ネットで検索したりして調べてみた。フランスのニワトリはコックェリコ　coquerico、ドイツではキッケリキー　kikkireki、スペインではキキリキ　quiquiriquiと時を告げるようである。時の告げ方も各国各様で面白いが、日本語に一番似ているのがマオリ族（ニュージーランド）のコケコッコ　kokekkoであった。日本語のルーツを考える上でもとても興味深い現象であろう。

酉

白川静博士の「字統」によると、酉という漢字は酒樽の形を示しているのだそうである。酉という漢字そのものが酒を意味する場合も少なくない。酉年の動物として鶏が充てられた理由はよくわからないが、そもそも十二支に動物名を割り振ったのは文盲で無学の人にも十二支を理解させるための方便に過ぎないので、動物名の由来を考

えるのはあまり意味がない。

しかしこの酉という漢字、私達医療に従事する人間には大いに関係があるのである。すでにお気づきの読者の方も多いと思うが、酉は醫という字の大きな構成部分のひとつである。

白川静博士の「常用字解」によると、醫という字の上部の構成部分、殹の編に当たる医は匸（隠された場所を意味する）の中に矢を置いた形なのだそうだ。殳という字は打つ（射つ）という意味で、殹は矢で悪霊を祓うという意味となる。

病気がすべて悪霊の仕業と考えられていた古い時代は、殹の下は酉ではなくて巫であった。病気を癒すのは専ら巫女さんの仕事であったからである。それが時代が進んで、酒で傷を洗ったり、薬用酒を飲用したりと酒が医療に利用されるようになってから、巫が酉に変わったのだそうだ。

しかし最近は醫という字にも滅多にお目にかかれなくなってしまった。オプジーボに代表される超高価薬が話題となる昨今であるが、醫の下の酉の部分が金に変わることだけは御免蒙りたいものである。

医学に貢献したニワトリ達

貢献したと言ってもニワトリが医学研究を行った訳ではないのであるが、医学史の中でニワトリが登場するエピソードを二つ紹介したい。

オランダ人の軍医エイクマン（Christian Eijkman, 1858 ～ 1930）はアムステルダム大学を卒業後の1896年、ジャワ島のバタビア（現在のインドネシア　ジャカルタ）に新設された病理学研究所の所長として当時世界中で熾烈を極めていた脚気の研究に従事していた。ニワトリを精白米で飼育するとニワトリも人間の脚気に似た多発性神経炎による麻痺を発症することが知られていたので、このニワトリを使っての研究である。ところがニワトリの飼料の中に米糠を加えてやるとニワトリはすぐに元気を回復するのに気付いた。彼は実験の当初は、精白米の中には何か毒素が含まれているのではないかと考えていたのであるが、この現象を観察して米糠の中に何か未知の必須栄養素が含まれているのではないかと発想を転換したのである。これには弟子のグリーンス（G. Grijns　残念ながら歴史に名は残っていない）の助言もあったようである。エイクマンはこの物質の抽出には成功しなかったが、この研究は後に鈴木梅太郎（1874 ～ 1943）やフンク（Kazimierz Funk, 1884 ～ 1967）によるビタミンB1（鈴木はオリザニンと命名）の発見につながり、エイクマンは1929年ノーベル生理・医学賞を受賞している。

もう一つにはワクチンの開発の端緒を開いた、パスツール（Louis Pasteur, 1822 ～ 1895）によるニワトリコレラの研究である。パスツールがニワトリに与えると激烈な下痢を発症して死んでしまうニワトリコレラ菌の研究に従事していた1880年夏のことである。パスツールは培養中のニワトリコレラ菌を放置したまま夏のバカンスに出掛けてしまった。情熱溢れる研究者として有名なパスツールも、夏のバカンスを大事にする一人のフランス人であったことがここでは幸いした。バカンスから帰ったパスツールは放置していたニワトリコレラ菌を培養皿から採取してニワトリに接種したがニワトリは下痢を発症しないのである。放置されている間に菌が死滅したかと思い、菌を新しく培養して接種しなおしてみた。新しく実験に供したニワトリはすべて激烈な下痢を発症して死んでしまったが、前に古い培養皿から採取されていた菌を接種されていたニワトリは全部元気なのである。ここでパスツールの頭にひらめいたのがジェンナー（Edward Jenner, 1749 ～ 1823）の牛痘法の研究であった。夏の暑い研究室に放置されていたニワトリコレラ菌は、発病させる力は失っていたが、牛痘法のように病気に対する抵抗力を与える力は残っていたのである。世界中の人々に多大な恩恵をもたらしたワクチンの開発には、この生き残ったニワトリ達が貢献したのである。

ワクチンという名前は、パスツールがジェンナーの牛痘法に敬意を払って、雌牛というラテン語ワッカ（vacca）から命名したものである。ここにもパスツールの素晴らしい人柄が偲ばれる。

2017年の酉年、鳥インフルエンザのワクチンの研究開発がさらに発展することを祈念してやまない。

船は女性か

元 医療法人誠十字病院
平衡神経科　医師　安田 宏一

ミュージカル「サウンドオブミュージック」の「ドレミの歌」に、こんな歌詞がある。“doe, a deer, a female deer”（ドは鹿、女の鹿）。鹿の雄と雌で、呼び名が違う。さすがヨーロッパは、狩猟民族である。

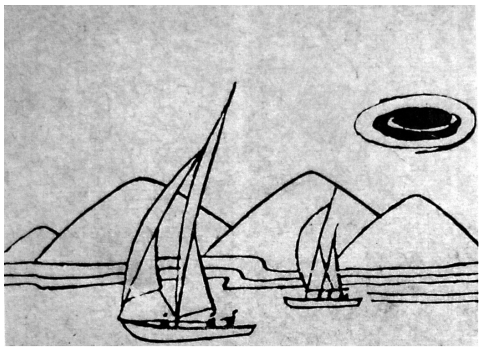
動物の場合、男女の区別をするのは分かる。しかし普通名詞に、男性名詞・女性名詞があるのが、分からない。ドイツ語とフランス語がそうである。ドイツ語は、おまけに中性名詞まである。その品物を、男っぽいとか女らしいというように、見立てるのであろうか。手近なところで、事務机はドイツ語で、Schreibtisch 男性名詞である。では食卓は女性名詞かと思うと、Esstisch も男性である。椅子 Stuhl も男性、ソファ Sofa が中性、ベンチ Bank がやっと女性である。どういうイメージでそうなったのか、よく分からない。

田中冬二の「レーキサイド・ホテル」という詩がある。都会的なスマートな作品である。

私はふと湖水のヨットを指して
うつくしいあなたに

「ふねはどうして女性ですか」と訊ねるという部分がある。わたしはこの詩から、長いあいだ「船は女性なのだ」と思い込んでいた。今回ドイツ語の男性・女性に違和感を感じたので、ドイツ語の「船」を調べてみた。するとdas Schiff 中性である。ではフランス語かと見ると、bateauで男性であった。英語には、男性名詞・女性名詞の区別はない。「船は女性だ」と言うのは、田中冬二の思い違いかと、ほとんど決めかけた。そこで気が付いて、念のためヨットをドイツ語で引いてみた。するとdie Yacht、女性名詞であった。

「ふねはどうして女性ですか」と問わずに、「ヨットは」と聞いてくれれば、こんな回りくどい目には会わなくて済んだのに。



ヨット、ドイツのパンフレットから

人体旅行記
脛

国立病院機構 九州医療センター
医療情報管理センター　部長　吉住 秀之

柔らかなふくらはぎの地を巡って反対側に回ると、硬く痩せた脛にたどり着きます。この地は痩せていて皮下脂肪はほとんどなく掘ればすぐ骨につきあたります。ぶつければ脛骨前面の骨膜の神経を強く刺激し涙が出るほど痛い思いをします。「弁慶の泣き所」といわれ、どんな猛者でも弱点となっています。西洋ではアキレス腱が、日本では脛骨前面がというように下肢の一部が弱点の代名詞とされていたことをみると、白兵戦が主体だった昔の戦での足の機動性、俊敏性がいかに重要だったかが分かります。

巷では脛が弁慶の泣き所として流布していますが、『武蔵坊弁慶由来』によれば、彼の弱点は脛でありません。伝説によれば、彼の強靱な肉体は母親が妊娠中に鋤を食べることで、鉄のような肉体を得たとあります。現代風にいえばエピジェネティックな変化によるものです。ところが十本目の鋤の半分しか食べられなかったことから、喉元だけに白い肉が残ってしまい、そこが唯一の弱点となったということです。アキレスの伝説と似たところがありますね。

痩せた脛でも親の脛は役に立つようで、昔から親に経済的に依存しつづけていることを「脛をかじる」といいますが、総務省統計局が実施している労働力調査のデータ[1)]から、現代の日本で未婚者がどのくらい親と同居しているかを知ることができます。それによると、親と同居している若年未婚者（20 ～ 34 歳）数は、2012 年の 1035 万人をピークに減少しつづけています。とはいってもこれは団塊ジュニア世代（1971 年～ 74 年生まれ）の世代が年をとって上の壮年の年齢層（35 ～ 44 歳）に移行しているためで、同年齢の階級人口に占める割合でみると、漸増しており 2012 年には 48.9％が親と同居しています。親と同居の壮年未婚者は、2003 年は 191 万人（35 ～ 44 歳の 11.7％）でしたが、2012 年には 305 万人（16%）と右肩上がりとなっています。親と同居している未婚者は、若年壮年ともに、同居していない同じ年齢層階級より完全失業率も高くなっています。日本の社会の構造的すねかじりは、将来わが国の泣き所となるかもしれません。

1）労働力調査のデータは http://www.stat.go.jp/data/roudou/index.htm を参照。

●福岡県私設病院協会・福岡県医療法人協会プラザ

平成 28 年 12 月福岡県私設病院協会の動き

◎ 看護部長会運営委員会

日　時　12 月 2 日（金）午後 3 時～
場　所　協会会議室
議　題
1．協議事項
⑴ 立入検査の現状及び情報提供について
⑵ 情報交換について
⑶ その他
2．報告事項
⑴ 前回議事録について
⑵ 私設病院協会研修会について
⑶ 私設病院協会 10 ～ 11 月の動き

◎ 総務委員会

日　時　12 月 13 日（火）午後 3 時 15 分～
場　所　協会事務室
議　題
1．定年延長と継続雇用制度の検討について
2．福岡県病院厚生年金基金解散に伴う対応について

◎ 広報委員会

日　時　12 月 13 日（火）午後 3 時 45 分～
場　所　協会事務室
議　題　「福私病ニュース」の編集等について

◎ 理事会

日　時　12 月 13 日（火）午後 4 時～
場　所　協会会議室
議　題
1．会長あいさつ
2．協議事項
⑴ 会員異動について
⑵ 研修会について
⑶ 地域医療構想策定について
① 第 2 回福岡県医療審議会について
② 第 3 回地域医療構想調整会議委員・各医師会担当理事合同会議について
③ 第 5 回福岡県地域医療構想調整会議について
⑷ 外国人雇用（ベトナム）に係るアンケート実施結果について
3．報告事項
⑴ 私設病院協会
⑵ 看護学校
⑶ 医療関連協業組合
⑷ 全日病本部・全日病福岡
⑸ その他
・平成 28 年度第 1 回福岡県医療費適正化計画推進委員会について
・次期診療報酬改定の要望事項提出について

理 事 会

◎ 第40回 理事会 報告

日　時　平成28年12月27日（火）
　　16：00～16：50
場　所　福岡県医師会館　6Ｆ「研修室３」
　　福岡市博多区博多駅南２丁目９－30
出席者（敬称略）
　会　長　石橋
　副会長　竹中
　理　事　平専務理事、澄井財務理事、
　　壁村企画理事、
　　安藤、飯田、一宮、岡留、大塚、
　　小嶋、小柳、島、津留、寺坂、深堀、
　　吉田、吉村
　議　長　岡嶋
　顧　問　八木

Ⅰ　行政等からの通知文書

該当なし

Ⅱ　報告事項

1 公益目的事業関係

・研修会、委員会の開催結果について、担当理事等から報告があった。

ア　リハビリテーション委員会（小柳担当理事）
　日　時　平成28年11月24日（木）15：00～
　場　所　JR博多シティ 10F「小会議室 G+H」
　議　題
　1. 第１回リハビリテーション研修会報告
　　アンケートによると、看護師の参加が多かった。
　2. 第２回リハビリテーション研修会の開催について
　　テーマ「認知症に対する最新の取組み」
　　基調講演　たきたクリニック院長
　　田北　昌史
　　パネルディスカション

イ　第53回診療情報管理研究研修会（平専務理事）
　日　時　平成28年11月28日（月）9：30～
　場　所　九州大学医学部百年講堂
　テーマ　病院の情報公開
　ⅰ 講 演
　1「我が国の死因統計の現状と、死亡診断書記載についての工夫」
　　北九州市立医療センター内科主任部長
　　日本診療情報管理学会評議員
　　三木　幸一郎
　2「全国がん登録　項目の理解について」
　　久留米大学病院腫瘍センター事務室
　　院内がん登録係長　折岡　健太郎
　3「病院の診療情報公開はどこに向かうのか」
　　国立病院機構九州医療センター
　　医療情報管理センター部長　吉住　秀之
　ⅱ シンポジウム
　「病院指標の公開について」
　①「病院指標公開までの過程」
　　済生会福岡総合病院診療情報管理室兼経営分析室　土橋　佳代子
　②「病院指標に関わる当院の対応と連合会病院の活動について」
　　国家公務員共済組合連合会浜の町病院
　　情報企画課診療録管理室　長島　永青
　③「病院指標についての当院の取組み」
　　飯塚病院診療情報管理室
　　サブマネージャー　原田　智史
　④「当院の病院指標の作成と公開について」
　　国立病院機構九州医療センター
　　医療情報管理センター
　　診療情報管理士　福島　祥子
　参加者、212名。内訳は、会員病院から168名、会員外病院から44名でした。

ウ　第149回看護研修会（一宮担当理事）
　日　時　平成28年12月15日（木）9：20～
　場　所　九州大学医学部百年講堂
　テーマ　地域包括ケア
　ⅰ 講 演
　「地域包括ケアシステムにおける看護師の役割」
　　茨城県立中央病院看護局長　角田　直枝
　ⅱ シンポジウム
　「地域包括ケアにおける地域連携の在り方～それぞれの立場から～」
　① 医療ソーシャルワーカーの立場から
　　九州大学病院 医療ソーシャルワーカー

室岡　明美
② 地域連携室の立場から
国家公務員共済組合連合会浜の町病院
看護師長（地域連携課長）恵内　幸子
③ 訪問看護ステーションの立場から
福岡赤十字病院訪問看護ステーション
看護副部長　井手　麻利子
参加者、283名。内訳は、会員病院から226名、会員外病院から57名でした。

・研修会、委員会の開催予定について、担当理事等から報告があった。
ア　第１回臨床検査研修会（壁村担当理事）
日　時　平成29年２月18日（土）13：00～
場　所　九州大学医学部百年講堂
テーマ　臨床検査における教育と安全管理
ⅰ 基調講演
「今後に向けた臨床検査技師の人材育成」
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院　中央検査部門臨床検査技師長
永井　正樹
ⅱ 講 演
「パニック値発生時の問題点とその対応」
久留米大学病院
臨床検査部副技師長　田代　恭子
ⅲ 講 演 「採血時の安全管理」
飯塚病院
臨床検査部副技師長　秋永　理恵
イ　第54回診療情報管理研究研修会
（平専務理事）
日　時　平成29年２月21日（火）９：30からの予定でしたが、３月に変更となる見通し。
場　所　九州大学医学部百年講堂
ウ　第２回リハビリテーション研修会
（小柳担当理事）
日　時　平成29年２月25日（土）13：00～
場　所　ナースプラザ福岡
テーマ　認知症の最近の取組み
基調講演 「認知症の治療を考える」
田北メモリーメンタルクリニック
院長　田北　昌史
パネルディスカッション
「認知症　私たちはこう対応する」
1「急性期病棟での対応」
独立行政法人国立病院機構
福岡東医療センター
看護師　藤原　秀美
2「理学療法診療場面での関わり」
今津赤十字病院
リハビリテーション課長　白石　浩
3「作業療法士としての関わり方」
西九州大学リハビリテーション学部
准教授 上城　憲司
4「言語聴覚療法診療場面での関わり」
健康リハビリテーション内田病院
言語聴覚士　藤川　仁
5「通所施設での工夫と対応」
小規模多機能施設 めおといわ「ゆい」
施設長　党　一浩
6「在宅復帰支援での関わり」
医療法人静光園白川病院
社会福祉士　竹下　一樹
7「見つめて 触れて 語りかけて　認知症ケア ユマニチュードとは」
特定医療法人原土井病院
作業療法士 安武　澄夫
エ　病院研修会　（安藤担当理事）
日　時　平成29年３月15日（水）17：30～
場　所　九州大学医学部百年講堂
テーマ　災害時の支援体制
講　師　久留米大学　坂本照夫教授
救命救急九州研修所　郡山一明教授
福岡市民病院　野田先生
ﾊﾟﾈﾗｰ　福岡赤十字病院　寺坂禮治院長

2 収益事業関係
・委員会の開催結果について、委員長から報告があった。
ア　ほすぴたる編集委員会（岡嶋委員長）
日　時　平成28年12月27日（火）15：45～
場　所　福岡県医師会館 ６Ｆ「研修室３」
協議事項
① １月号の現況について
② ２月号、３月号の編集について
③ その他

・委員会の開催予定について、担当理事から報告があった。
ア　経営管理研究会（津留担当理事）

日　時　平成29年２月27日（月）14：30～
場　所　九州大学医学部百年講堂
テーマ　人事・労務管理
講　演「実務者からみた院内活性化の人事・労務」
社会医療法人厚生会木沢記念病院
事務長・病院長補佐　佐合　茂樹

イ　医療事務研究会（大塚担当理事）
日　時　平成29年３月27日（月）13：00～
場　所　九州大学医学部百年講堂
テーマ
「事務職員こそ病院経営を支えるキーマン」
～“接遇とコミュニケーション”患者の受療行動を支援しよう～
講　師　ミッションウイル代表　田中　惠子氏

3　法人事務等関係

⑴「第 40 回理事会」の議事録について
（平専務理事）
原案どおり、承認されました。

⑵ 収入・支出内訳表（11月分）について
（澄井財務理事）
澄井財務理事の説明後、承認されました。

⑶ 退会・入会届（平専務理事）
医療法人井口野間病院、医療法人敬天会東和病院（病院長交代のため）
承認されました。

⑷ 定款第21条第５項の規定に基づく理事会への役員活動報告について（平専務理事）
承認されました。

⑸ カネミ倉庫との契約更新について
（平専務理事）
承認されました。

⑹ 福岡県歯科保険医協会からの後援依頼
（平専務理事）
医療・介護フォーラム2017
後援することが、承認されました。

⑺ 山口・福岡・岡山・広島各県病院協会連絡協議会の議題について（平専務理事）
日　時　平成29年１月27日（金）
15：00～19：00
場　所　ホテルグランヴィア広島
福岡県病院協会からの提案
「医療事故調査制度施行１年後の現状」

⑻ 平成28年度福岡県病院協会地域医療向上事業費補助金の入金について（平専務理事）
平成28年11月25日に、福岡県から6,110,000円の払い込みがあった。

⑼ 平成28年度参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会について（平専務理事）
日　時　平成28年12月６日（火）17：00～
場　所　ホテルセントラーザ博多
懇談会には42人、懇親会には36人の参加でした。

Ⅲ　協議事項

今回は、特にありませんでした。

Ⅳ　その他

⑴ 今後の開催予定について（平専務理事）
ア　ほすぴたる編集委員会・理事会
日　時　平成29年１月24日（火）
① 15：45～　ほすぴたる編集委員会
② 16：00～　理事会
場　所　福岡県医師会館６F「研修室３」

イ　ほすぴたる編集委員会・理事会
日　時　平成29年２月28日（火）
① 15：45～　ほすぴたる編集委員会
② 16：00～　理事会
場　所　福岡県医師会館６F「研修室3」

ウ　ほすぴたる編集委員会・理事会・臨時会員総会
日　時　平成29年３月28日（火）
① 15：45～　ほすぴたる編集委員会
② 16：00～　理事会
③ 17：10～　臨時会員総会
場　所　JR博多シティ 10F「小会議室 G+H」

⑵ 最近の医療情勢について
岡留理事から、２月に大阪で開催される、メディカルジャパンの紹介があった。
竹中副会長が、地域医療構想に関し、病床報告において報告値と 2025 年の推計値に大きなかい離が見られることを取り上げられ、各病院が自律的に報告の精度を上げる必要性を述べられた。また、岡留理事は自主的に方向性を考える重要性を指摘され、安藤理事からは当協会からの情報発信について、寺坂理事からは病床機能報告における定義について、吉村理事からは調整会議について、それぞれ意見が出された。

久留米大学病院

病院長 志波 直人

〒830-0011
久留米市旭町67番地
電話（0942）35-3311　FAX（0942）32-6278
URL http://www.hosp.kurume-u.ac.jp

地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市民病院

院長 竹中 賢治

〒812-0046
福岡市博多区吉塚本町13番1号
電話（092）632-1111　FAX（092）632-0900
E-mail:shiminbyoin@fcho.jp
URL http://www.fcho.jp/shiminhp

医療法人
原三信病院

理事長
院長 平 祐二

〒812-0033
福岡市博多区大博町1－8
電話（092）291-3434　FAX（092）291-3424
URL http://www.harasanshin.or.jp

独立行政法人 国立病院機構
福岡東医療センター

院長 上野 道雄

〒811-3195
古賀市千鳥1丁目1番1号
電話（092）943-2331　FAX（092）943-8775
E-mail:shomu@fukuokae2.hosp.go.jp

独立行政法人 国立病院機構
小倉医療センター

院長 澄井 俊彦

〒802-8533
北九州市小倉南区春ヶ丘10番1号
電話（093）921-8881　FAX（093）922-5072
URL http://www.kokura-hp.jp/

福岡市医師会成人病センター

院　長　**壁　村　哲　平**

〒 814-8522
福岡市早良区祖原 15 番 7 号
電 話（092）831-1211　FAX（092）845-7606
E-mail:seijin@city.fukuoka.med.or.jp
URL http://www.fma-hp.or.jp

公立八女総合病院

企業長　**平　城　　守**

〒 834-0034
八女市高塚 540 番地 2
電 話（0943）23-4131　FAX（0943）22-3185
E-mail:yame-general@yamehp.jp
URL http://www.hosp-yame.jp/hospital/

公益社団法人 地域医療振興協会
飯塚市立病院

管理者
兼院長　**武　冨　　章**

〒 820-0088
飯塚市弁分 633 番 1 号
電 話（0948）22-2980　FAX（0948）24-3812
E-mail:info-iizukahp@jadecom.or.jp

独立行政法人 地域医療機能推進機構
九州病院

院　長　**多治見　司**

〒 806-8501
北九州市八幡西区岸の浦 1 丁目 8 番 1 号
電 話（093）641-5111　FAX（093）642-1868
URL http://kyusyu.jcho.go.jp

医療法人 永聖会
松田病院

理事長
院　長　**松田峻一良**

〒 812-0053
福岡市東区箱崎 2 丁目 10 番 2 号
電 話（092）651-0522　FAX（092）651-5793
URL http://www.matsuda-hospital.jp

福岡逓信病院

院　長　**津田泰夫**
副院長　**和田寛也**

〒 810-8798
福岡市中央区薬院 2 丁目 6 番 11 号
電 話（092）741-0300　FAX（092）781-2563
URL http://www.hospital.japanpost.jp/fukuoka

― 基本理念 ―
こどものいのちと健康をまもる
～すべてのこどもとご家族の明るい未来を願って～

地方独立行政法人 福岡市立病院機構
福岡市立こども病院

院　長　**原　　寿　郎**

〒 813-0017
福岡市東区香椎照葉５丁目１番１号
電 話（092）682-7000　FAX（092）682-7300
E-mail:f-kodomo@fcho.jp
URL http://www.fcho.jp/childhp

救急告示・開放型病院
特定医療法人 八木厚生会
八　木　病　院

理事長　**八　木　博　司**
院長代行　**三　谷　昌　光**

〒 812-0054
福岡市東区馬出２丁目 21 番 25 号
電 話（092）651-0022　FAX（092）631-1919
URL http://www.yagi.or.jp

福岡県立精神医療センター
太　宰　府　病　院

院　長　**小　嶋　享　二**

〒 818-0125
福岡県太宰府市五条３丁目８番１号
電 話（092）922-3137　FAX（092）924-4060
E-mail:info@dazaifu-hsp.jp

医療法人
貝　塚　病　院

理事長　**庄　司　哲　也**
院　長　**川　口　信　三**

〒 812-0053
福岡市東区箱崎７丁目７番 27 号
電 話（092）632-3333　FAX（092）632-2230
URL http://www.kaizuka-hosp.or.jp
facebook http://www.facebook.com/kaizuka-hospital/

早　良　病　院

院　長　**梅　野　守　男**

〒 819-0002
福岡市西区姪の浜２丁目２番 50 号
電 話（092）881-0536　FAX（092）883-8761
URL http://www.sawara-hp.jp

医療法人 誠心会
井　上　病　院

理事長　**井　上　朝　生**
院　長　**井　上　　健**

〒 819-1104
福岡県糸島市波多江 699 － 1
電 話（092）322-3437　FAX（092）322-5806
E-mail:inouehospital@sih.or.jp

公益財団法人 健和会

健和会大手町病院

理事長　三　宅　　昌
院　長　西　中　徳　治

〒 803-8543
北九州市小倉北区大手町 15 － 1
電 話（093）592-5511　FAX（093）592-2726
URL http://www.kenwakai.gr.jp

日本医療機能評価機構認定病院

社会福祉法人恩賜財団済生会支部

済生会飯塚嘉穂病院

院　長　迫　　康　博

〒 820-0076
福岡県飯塚市太郎丸 265
電 話（0948）22-3740　FAX（0948）29-1987
E-mail:soumu@iizuka-kaho.jp

福岡赤十字病院

日本赤十字社

院　長　寺　坂　禮　治

〒 815-8555
福岡市南区大楠 3 丁目 1 番 1 号
電 話（092）521-1211　FAX（092）522-3066

医療法人 徳洲会

福岡徳洲会病院

院　長　海 江 田　令 次

〒 816-0864
福岡県春日市須玖北 4 丁目 5 番地
TEL（092）573-6622　FAX（092）573-1733

日本医療機能評価機構認定病院
救急告示・開放型　臨床研修病院指定

医療法人

西　福　岡　病　院

理事長　安　藤　文　英
院　長　中　垣　　充

〒 819-8555
福岡市西区生の松原 3 丁目 18 番 8 号
電 話（092）881-1331　FAX（092）881-1333
E-mail:jim@nishifukuhp.or.jp
URL http://www.nishifukuhp.or.jp

日本医療機能評価機構認定病院
地域医療支援病院・災害拠点病院

社会福祉法人恩賜財団済生会支部

済生会二日市病院

院　長　間　野　正　衛

〒 818-8516
福岡県筑紫野市湯町三丁目 13 番 1 号
電 話（092）923-1551　FAX（092）924-5210
E-mail:infosaisei@saiseikai-futsukaichi.org

国家公務員共済組合連合会

浜の町病院

院長　一宮　仁

〒810-8539
福岡市中央区長浜３丁目３番１号
電話（092）721-0831　FAX（092）714-3262
E-mail:info@hamanomachi.jp
URL http://www.hamanomachi.jp

社会医療法人財団 池友会

福岡和白病院

理事長　蒲池　眞澄
院長　富永　隆治

〒811-0213
福岡市東区和白丘２丁目２－75
電話（092）608-0001　FAX（092）607-3051
E-mail:info@f-wajirohp.jp
URL http://www.f-wajirohp.jp

医療法人 弘恵会

ヨコクラ病院

理事長　横倉　義武
院長　横倉　義典

〒839-0295
みやま市高田町濃施480－２
電話（0944）22-5811　FAX（0944）22-2045
URL http://www.yokokura.jp

公立学校共済組合

九州中央病院

病院長　飯田　三雄

〒815-8588
福岡市南区塩原３丁目23－１
電話（092）541-4936　FAX（092）541-4540
URL http://kyushu-ctr-hsp.com

医療法人 福岡桜十字

桜十字福岡病院

理事長
院長　今村　博孝

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通３丁目５－11
電話（092）791-1100　FAX（092）791-1105
E-mail:fukuoka.info@sakurajyuji.jp
URL http://www.sj-fukuoka.or.jp/

社会福祉法人恩賜財団済生会支部

済生会福岡総合病院

院長　岡留　健一郎

〒810-0001
福岡市中央区天神１丁目３－46
電話（092）771-8151　FAX（092）716-0185
E-mail:byoin@saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp
URL https://www.saiseikai-hp.chuo.fukuoka.jp

医療法人 敬天会
武　田　病　院

理事長
院　長　武　田　　卓

〒 814-0104
福岡市城南区別府４丁目５－８
電 話（092）822-5711　FAX（092）822-5714
E-mail:keiten.hospital@herb.ocn.ne.jp

医療法人 博愛会
京（みやこ）　都　病　院

理事長
院　長　岡　松　秀　一

〒 824-0811
福岡県京都郡みやこ町勝山箕田 298 番地
電 話（0930）32-2711　FAX（0930）32-2848
URL http://www.miyako-hp.or.jp

医療法人社団 益豊会
今　宿　病　院

理事長
院　長　深　堀　元　文

〒 819-0167
福岡市西区今宿２丁目 12 番７号
電 話（092）806-0070　FAX（092）806-4417
E-mail:info@imajuku-hospital.gr.jp

医療法人社団 水光会
宗像水光会総合病院

理事長　津　留　英　智
院　長　田 山　慶 一 郎

〒 811-3298
福岡県福津市日蒔野５丁目７番地の１
電 話（0940）34-3111　FAX（0940）43-5981
E-mail:hosp@suikokai.or.jp

独立行政法人 地域医療機能推進機構
福岡ゆたか中央病院

院　長　野　田　晏　宏

〒 822-0001
直方市感田 523 － 5
電 話（0949）26-2311　FAX（0949）26-6748
E-mail:main@fukuoka.jcho.go.jp

HARADOI HOSPITAL
㈶日本医療機能評価機構認定
臨床研修指定病院
原　土　井　病　院

理事長　原　　寛
院　長　小　柳　左　門

〒 813-8588
福岡市東区青葉６丁目 40 番８号
電 話（092）691-3881　FAX（092）691-1059
E-mail:info@haradoi-hospital.com
URL http://www.haradoi-hospital.com

地域医療支援病院
日本医療機能評価機構認定病院

糸島医師会病院

院長 冨田 昌良

〒819-1112
福岡県糸島市浦志532番地1
電話（092）322-3631　FAX（092）322-3774
E-mail: info@itomedhp.jp
URL http://itomedhp.jp

医療法人社団 俊聖会

甘木中央病院

理事長 中村 雅史

〒838-0068
福岡県朝倉市甘木667
電話（0946）22-5550　FAX（0946）24-3572
E-mail:ama-chuo@juno.ocn.jp

国家公務員共済組合連合会

新小倉病院

院長 渋谷 恒文

〒803-8505
北九州市小倉北区金田1丁目3－1
電話（093）571-1031　FAX（093）591-0553
E-mail:kkr-shinkokura@shin-kokura.gr.jp
URL http://www.shin-kokura.gr.jp

国家公務員共済組合連合会

千早病院

院長 明石 良夫

〒813-8501
福岡市東区千早2丁目30－1
電話（092）661-2211　FAX（092）683-0411
E-mail:chihaya@chihaya-hp.jp
URL http://www.chihaya-hp.jp/

独立行政法人 国立病院機構

九州医療センター

院長 村中 光

〒810-8563
福岡市中央区地行浜1－8－1
電話（092）852-0700　FAX（092）847-8802
URL http://www.kyumed.jp

医療法人 佐田厚生会

佐田病院

理事長 佐田 正之
院長 住吉 金次郎

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通2丁目4番28号
電話（092）781-6381　FAX（092）724-9411
E-mail:info@sada.or.jp

医療法人社団 福光会

福田眼科病院

理事長 福田　量
院　長 江島哲至

〒814-0013
福岡市早良区藤崎1丁目24－1
電 話（092）841-2345　FAX（092）841-2649
E-mail:fukudaganka@nifty.com
URL http://www.fukudaganka.jp

医療法人社団 筑山会

松岡病院

理事長
院　長 松岡嘉宣

〒821-0012
福岡県嘉麻市上山田1287
電 話（0948）52-1105　FAX（0948）52-1926

医療法人社団 久英会

高良台リハビリテーション病院

理事長
院　長 中尾一久

〒830-0054
福岡県久留米市藤光町965番地の2
電 話（0942）51-3838　FAX（0942）51-3535
E-mail:kouradai-web@kyueikai.jp

一般社団法人 福岡県社会保険医療協会

社会保険仲原病院

院　長 岡嶋泰一郎

〒811-2233
福岡県糟屋郡志免町別府北2丁目12－1
電 話（092）621-2802　FAX（092）623-2247
E-mail:nhp-jimu1@nakabaru-hp.jp
URL http://www.nakabaru-hp.jp/

医療法人 真鶴会

小倉第一病院

理事長・院長 中村秀敏

人工透析内科／腎臓内科
糖尿病内科／循環器内科
内分泌内科／リウマチ科／形成外科

〒803-0844　北九州市小倉北区真鶴二丁目5-12
TEL：（093）582-7730　FAX：（093）592-7689
E-mail：kdhhp@pos.gr.jp　URL：http://www.kdh.gr.jp/
医療法人真鶴会 小倉第一病院

田川市立病院

田川市
病院事業管理者 齋藤貴生
病院長 鴻江俊治

〒825-8567
福岡県田川市大字糒1700番地2
電 話（0947）44-2100　FAX（0947）45-0715
E-mail:shiritsubyouin@lg.city.tagawa.fukuoka.jp
URL http://hospital.city.tagawa.fukuoka.jp

社会医療法人 雪の聖母会
聖 マ リ ア 病 院

理事長 井 手 義 雄
院 長 島 弘 志

〒 830-8543
福岡県久留米市津福本町 422 番地
電 話 (0942)35-3322　FAX (0942)34-3115

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリアヘルスケアセンター

理事長 井 手 義 雄
院 長 井 手 睦

〒 830-0047
福岡県久留米市津福本町 448 番 5
電 話 (0942)35-5522　FAX (0942)34-3306

＊掲載は受付順にさせていただきました。

おもいやりの心でサポートします

県内精神科病院の寝具及び下着類の洗濯・貸与・販売・補修業務一切
他にグループ保険・病院賠償責任保険等の各種保険

福岡県精神科病院協同組合

理事長 冨松 愈

〒810-0005　福岡市中央区清川三丁目14番20号 2F
TEL092-521-0690／FAX092-524-4632

九州一円の医療機関経営をサポートする
福岡県精神科病院協同組合100％出資会社

有限会社 DMS（ドリーム・メディカル・サービス）

〒810-0005　福岡市中央区清川三丁目14番20号 3F
TEL092-525-7666・7667／FAX092-525-7668

編 集 後 記

あけまして、おめでとうございます。

平成 29 年度、第1号の「ほすぴたる」をお届けします。

冒頭で、小川洋福岡県知事、松田峻一良福岡県医師会長、それに石橋達朗福岡県病院協会会長の皆様より、新年のご挨拶と抱負を述べていただきました。また、会員の皆様からは、多数の年賀広告が寄せられ、編集部一同、心より御礼を申し上げます。

さて、正月ボケもあり、編集後記に書くべきネタが浮かんできません。そこで昨年同様、編集委員会と、事務局の*メンバー*総出演による酉年新春大演劇を演じることにします。題して、「ヒッチコックの“鳥”より怖い“鳥”」。幕が開きます。とざい、と〜ざ〜い！

昔、昔、*上野*の森の奥深くに、軍鶏入りの雑煮が評判の店があった。店主は*竹中*半兵衛の子孫という触れ込みである。酉年の元旦、鶏の鳴き声で目覚めた*オカジマ*は、初詣での帰りに、この店に寄ることにした。空は青く*澄み*、気持ちの良い正月である。森の中を歩いていると、いつの間にか霧が出て、あたりは鬱蒼とした気配に包まれてきた。（妙だな?）。一応、侍であるオカジマは、刀の*柄の先*を握り、いつでも抜刀できることを確かめた。鞘の中は竹光である。サルコペニアが進み、本物の刀は重くて運べない。眼前に金色に光る*石橋*が現れた。悪いとは思ったが、石橋をたたいてわたった。と、突然、激しい雷鳴とともに、暗雲立ち込める空に獣の咆哮が轟いた。怪鳥だ。これが後世、ラドンと呼ばれる怪獣であることを、この時オカジマは知らない。怪鳥は今にも襲いかかってきそうだ。逃げようとすると、ます*ますもっと*獰猛になる。先方に、*平ら*な場所が見えた。そこは初詣でに立ち寄った*チヂワ*神社であった。怪鳥がまさに襲いかかろうとした時、巫女が現れ、*ナガヌマ*と名乗った。「私がお助けしましょう」。オカジマは思わず尋ねた。「あなたが？ 本当に大丈夫ですか?」。ナガヌマは答えた。「大丈夫、私、失敗しないので」。ナガヌマが両手を振ると数羽の青い鳥が現れた。「御意！」と叫ぶと、青い鳥は怪鳥を取り囲み、遠くへ連れ去った。空は再び青さを取り戻し、霧も晴れている。*壁に囲まれた村*があり、中に雑煮屋があった。店には、豹柄の毛皮を着たおやじがいた。「アイ　ハブ　アペ〜ン」と意味不明の言葉を喋り、筆のようなものをくれた。筆を受け取ったオカジマの手が突然、勝手に動き出した。（こ、これは、自動書記か?）　手は、「ほすぴたる」編集後記、と書き始めた。夕焼空にからすの鳴き声が響き、とんびがくるりと輪を描いた。~FINE~

今年も編集委員会一同、さらに充実した内容の「ほすぴたる」づくりを目指します。皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（岡嶋 泰一郎 記）

第１回 臨床検査研修会のご案内

開 催 日　平成29年２月18日（土）　13：00～16：50

場　　所　九州大学医学部百年講堂1F「中ホール　１・２」
福岡市東区馬出３丁目１－１

参 加 料　会 員 病 院　　1人につき　2,500円
会員外病院　　1人につき　3,500円

参加申込締切日　平成29年２月10日（金）

テ ー マ　「臨床検査における教育と安全管理」

基調講演　「今後に向けた臨床検査技師の人材育成 － 2025 年問題を踏まえて－」
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院
中央検査部門臨床検査技師長　永井　正樹 先生

講 演 Ⅰ　「パニック値発生時の問題点とその対応」
久留米大学病院 臨床検査部副技師長　田代　恭子 先生

講 演 Ⅱ　「採血時の安全管理」
飯塚病院 臨床検査部副技師長　秋永　理恵 先生

＊お問合せは福岡県病院協会事務局（TEL 092-436-2312／URL http://www.f-kenbyou.jp）まで
お願いいたします。

ほすぴたる　第 708 号

平成 29 年 1 月 20 日発行

発　行　◎（公社）福 岡 県 病 院 協 会
〒812－0016　福岡市博多区博多駅南２丁目９番 30 号
福岡県メディカルセンタービル 2F
TEL092－436－2312／FAX092－436－2313
E-mail fukuoka-kenbyou@globe.ncn.ne.jp
URL http://www.f-kenbyou.jp

編集発行人　◎（公社）福 岡 県 病 院 協 会

制　作　◎（株）梓　書　院
〒812－0044　福岡市博多区千代３－２－１
麻生ハウス 3F
TEL092－643－7075／FAX092－643－7095
E-mail : mail@azusashoin.com

編 集 主 幹…石橋　達朗
編 集 委 員 長…岡嶋泰一郎
編集副委員長…竹中　賢治
編 集 委 員…平　祐二・上野　道雄
澄井　俊彦・増本　陽秀
壁村　哲平・塚﨑　恵子